

「こころときめく贈り物」～高校生にすすめる1冊の本～全リスト編・第5号



愛知県教育委員会

「こころときめく贈り物」も第5号となりました。今回は、愛知県内の国立・公立・私立高等学校・特別支援学校(高等部)・中等教育学校(後期課程)の図書館担当など274人の先生方からの推薦本全225冊を、著者の50音順に並べ、推薦メッセージを掲載しました。ジャンル等、様々な本を紹介しています。現在のあなたのバイブルとなる一冊を探してみてください。あなたの期待に応えられる本にも出会えるでしょう。

本は、出会った時の年齢・感情・環境によって、様々な世界を私たちに見せてくれます。読んだことのある本、繰り返し読んできた本、初めて読む本、どれもが、その時々に出会うことができる世界があります。そのような一期一会の世界を大切に、本を手にとってみてください。

(著者50音順)

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
1	にんげんだもの	相田みつを	角川文庫	2000年	日頃の忙しさ、携帯やメールや情報洪水の生活の中で、疲れすぎていませんか？ この本は人の弱さ、人が傷つくこと、悩んだりすることをごく自然に受け入れて、その上で人を励ましてくれています。生きることの大切さを考え続けるために何度も読み返してみるのもいいと思いますよ。こんな言葉を聞いたことがない人は是非読んでみるとういいますよ。「つまずいたり、ころんだりするほうが自然なんだな、人間だもの」
2	ハッピーバースデー	青木和雄／ 吉富多美	金の星社	2005年	話に引き込まれ、時を忘れて、すぐに完読できました。読み終わった後は、「感動した」という気持ちになりました。周囲の人を元気づけ、前向きにさせるにはどうしたらいいか、明るく前向きに生きることの重要性、愛を与えること、与えられることは何かを考えさせられました。ここでいう愛とは、家族に対する愛、友人に対する愛についてです。母の虐待により自殺寸前まで追い詰められた小学校6年生の主人公の女子が、母の愛の欠如に苦しみ、祖父母の愛を受けて立ち直り、そして愛で周囲を助けるまでに成長します。是非ご一読ください。
3	ドキュメント高校中退ーいま、貧困が生まれる場所	青砥恭	ちくま新書	2009年	タイトルにあるように、文章の大半がドキュメンタリー形式となっています。舞台は高校中退の多い高校。そのような学校で勤務している教師への取材、高校中退した生徒達へのインタビューが多く載せられています。インタビューが会話形式で記述されているため、高校を中退した原因や高校中退後の生活などが分かります。まるで映像でインタビューや現場を見ているかのような描写もされており、感情移入して涙しながら読むシーンもあります。また、統計結果などから、タイトルにもある貧困が生まれた背景や原因も考察され説得力ある本です。
4	ふたり	赤川次郎	新潮社	1991年	高校の時の文化祭の劇で上演され、それがきっかけで読みました。亡くなったはずの姉の声を聞くようになった妹。そこから新しい日々が始まりました。切なくて感動の青春ストーリー。映画化もされていて、これもお勧めです。
5	蜘蛛の糸	芥川龍之介	新潮社	1968年	極悪人は、極楽に行けるのかな？ その答えは、お釈迦様と糸だけが知っている。運命を決めるものは、何だろう？ ストーリーは分かりやすく、読みやすいので、何度も読んで、考えてみよう！
6	壬生義士伝	浅田次郎	文藝春秋	2002年	慶応四年、鳥羽・伏見の戦いで息も絶え絶えになった一人の新撰組隊士 吉村寛一郎。たどり着いた大阪にある南部藩の蔵屋敷で突き付けられたのは「不調法せずに、さばつと腹切つて死ね」のひと言でした。「人斬り寛一」と恐れられた武士には胸に宿る一念がありました。半世紀近い月日が流れ、「おうい、今帰(けえ)つたぞお」と盛岡の土を踏む一人の男。寛一郎の果たせなかった願いを叶えたのは誰でしょう？ 義を貫き、武士道に命を捧げた時代は今から150年もさかのぼれば出会えます。遠い昔話だと片づけてしまう前にこの本を開いてみてください。歴史が大きく動く瞬間に立ち会えます。幕末の息づかいが聞こえるはずですよ。
7	へいわってすてきだね	安里有生	ブロンズ新社	2014年	毎日の何気ない時間は、すごく大切な時間です。家族と過ごす時間、友達と過ごす時間、いつもの学校の時間、みんなが今過ごしているこのときは、とても幸せなのだと感じます。戦争を体験していない私たちが、平和ってなんだろう、戦争ってなんだろうと一度考えてみましょう。「ありがとう」と、伝えたい気持ちがかわいてくるかもしれません。読み終わった後に、楽しいことや嬉しいこと、かけがえのない時を過ごしていることが実感できる絵本です。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
8	No.6	あさのあつこ	講談社	2008年	この小説は、架空の都市「NO.6」を舞台とした近未来ファンタジーですが、物語というにはあまりにもあり得そうな未来都市と権力の構造が描かれています。全く違う環境で育った二人の主人公「ネズミ」と「紫苑」が、「NO.6」の権力と支配に立ち向かいながら私たちに見せてくれる友情と成長は、作品の大きな魅力。彼らの戦いは、現代社会を生きる私たちに「ひるむな、立ち向かえ。」と呼びかけてもいるようです。それにしても、「ネズミ」のツンデレぶりは徹底しています。「紫苑」に向けられる現実的でシビアな言葉の数々の中にある、二人の絆を味わってくださいね。
9	カラーハンター	アサハラ マサキ	文芸社	2013年	あなたは「自分らしさ」について考えたことがありますか？ この絵本の主人公は「見た目が白黒」という共通点を持つペンギン、ウン、パンダ。彼らは自分の色に物足らず、もっとカラフルになりたいとカラーハンターに出かけます。いろいろな果物の色を集め、カラフルに変身した彼らはみんなに自慢して回りますが、結局周りの評判ばかりが気になり、くたくたに疲れてしまいます。 あなたにとって「自分らしい色」ってどんな色ですか？この絵本から本当の自分らしさに気付くヒントが見つかるかもしれません。
10	いじめられている君へいじめている君へ いじめを見ていない君へ	朝日新聞社 編	朝日新聞出版社	2012年	朝日新聞で連載されたさまざまな分野で活躍する著名人63名が寄せた「いじめ」に関するメッセージ集。いじめの体験を乗り越えてきた人たちの言葉、いじめをする人に問いかける言葉、自分には関係のないことといじめを見ている人に対する言葉。いじめを取り巻くすべての人に向けて、短いながらも強いメッセージが込められている。この本は、自分はいじめには関係ないと思っている人も含めて、多くの人に読んでもらいたい本である。そして、「いじめ」や「いのち」について考えるきっかけとなってほしい。
11	砂の女	安部公房	新潮文庫	1962年	休暇を利用し、海辺の砂丘へやってきた男性が、一人の女性の住む砂丘の穴の底の民家に閉じ込められるんです。脱出しようにも蟻地獄の砂の底にいるわけだから、なかなか脱出できません。砂の底で女性と共に暮らすうちに男性の心の中に、ある変化が起きてきます。これは、砂の底の生活というあり得ない場所での生活を描きながら、うーん、そうだよねとうなずいてしまう所があります。
12	居場所の社会学	阿部 真大	日本経済新聞出版社	2011年	高校生になって、自分は何のために生まれてきて、これからどのように生きていったらいいのかという不安が強くなることはありませんか。生きづらさを感じることはありませんか。この本は、居場所について理解を深めるのに役立つ本です。「居場所」は人が生きていくための命綱。現在の家族や職場の問題点がたくさんあげられていて、自助努力の限界を知り、社会に求めていくことの大切さを強く実感します。それぞれの人のたった一度のかけがえのない人生のために、みんなで発想の転換をして、安心感が持てる社会を作っていきませんか。
13	熱く生きる	天野篤	セブン&アイ出版	2014年	天皇陛下の心臓手術を担当した外科医である著者が、自分の生き方を文字通り「熱く」語った本。「落ちこぼれだった高校生が、心臓病で闘病する父親を助けようと医者を目指し、三浪して医学部に進学。やがて心臓外科医になるが、自分も立ち会った手術で父親を失う。一念発起して腕を磨き、冠動脈バイパス手術の症例数で日本一になる」という半生はまるでドラマのよう。自分に妥協せず、失敗を乗り越え、成功に安住することなく、日々仕事に真正面から向き合っている。働くことの意味をヤケドしそうなほど見せつけられます。
14	旅猫リポート	有川浩	文藝春秋	2012年	語り手は、ナナという名の猫(実はおス)。飼い主のサトルという青年が、ナナとともに愛車のワゴンに乗って、ナナの新しい飼い主を探して知り合いを訪ねる旅をします。少々毒舌なナナと心優しいサトルの、楽しい旅の日々。 しかし、サトルがナナの飼い主を探すわけが明らかになったとき、互いを思い合うナナとサトルの深い愛情が胸に強く響きます。 高校生のみなさんならきっとその思いをまっすぐ受けとめられるはず。読みやすく、でも心を揺さぶられる一作。 猫好きな人はもちろん、そうでない人にもおすすめの本です。 みなさんはどのように本を選びますか。私の場合、題名を見てなんとなく読み始めることが多いです。この本も、学校の図書館でふと目に留まった1冊です。無類の猫好きな私は、その題名に惹かれたのです。肝心の中身はというと……。この本は、一匹の猫が最愛の人と旅をするお話です。その旅はとても楽しくて温かくて、しかしどこか切なさや寂しさを感じさせます。何気なく手にした本が、心にずっと染み込むことがあります。偶然の出会いが心に潤いを与える。そんな体験はいかがですか？
15	図書館戦争	有川浩	メディアワークス	2006年	男勝りな主人公・笠原郁は検閲がまかり通る仮想現代で、大好きな本を守るため、図書館の武力集団「図書隊」に入り戦う決意をする。図書館と戦争という一見ミスマッチな組み合わせなのに、有川浩お得意のきゅんとくる恋愛要素とドキドキの戦闘シーンに引き込まれ、ページを読む手が止まらない！ また、普段は中々意識しない表現の自由や知る権利などを改めて考えるきっかけにもなり、図書館の仕事や出版業界についてもくわしく描写されているので、本が好きなたやその方面の職業に興味があるなら、是非一度読んでほしい一冊です。
16	三匹のおっさん	有川浩	文藝春秋	2009年	還暦を迎えた3人のおっさん達が、町内で起きた様々な事件を解決していく作品です。個性の強い3人のキャラクターがとてもコミカルに描かれており、最初から最後まで楽しみながら読むことができます。現代の社会で起きている様々な問題がリアルに描かれており、それらを解決していく様子はとても爽快で、読んでいて気持ちのいいものです。 また、3人の孫や娘なども登場し、各世代の価値観や考え方も描かれており、それらに触れることで、各世代の登場人物が少しずつ成長していく姿も見られます。このような魅力的な人々が増えてほしいと思わせてくれる物語です。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
17	阪急電車	有川浩	幻冬舎	2010年	「電車について書かれている本なのでは？」と思った人！実は違います。片道わずか15分のローカル線の中で起こる小さな奇跡の数々。恋のはじまり、別れの兆し・・・偶然居合わせた人たちが少しずつどこかでつながっている、それはまるで電車の駅のようなです。関西人独特の言い回しや距離感もこの本の魅力です。いつも何気なく乗っている電車の風景が、いつもと少し変わって見えるかもしれません。内容が非常に分かりやすいので、普段あまり本を読まない人にもオススメです。ぜひ一度手に取って読んでみてください。
18	アインシュタイン ひらめきの言葉	アルバート・アインシュタイン	ディスカヴァー・トゥエンティワン	2014年	本を読むのは好きですか？この本は、物理学者で有名なアインシュタインの心打つ言葉と共に、美しい星々の写真が本を開く私たちを魅了する、そんな本です。 全てのページを開き終えたとき、きっとあなたはお気に入りの言葉を見つけることができるでしょう。苦しいとき、何かに悩み迷った時、どうしようもない行き詰まりを感じた時、この本を開いてみてください。自分の中のモヤモヤした気持ちがずっと喉元を通り抜け、自己を解放する、そんな感覚が味わえます。 天才と呼ばれて生きた彼の言葉を、是非、感じてみてください。
19	Good Luck	アレックス・ロピラ	ポプラ社	2004年	「『運』と『幸運』の違い、わかるか？」 私は高校生の時、こんな質問をされたことがあります。頭をひねる私に、彼は一冊の本を差し出しました。その本は、緑色の表紙に四葉のクローバーが描かれたものでした。この魔法のクローバーを見つけることができれば、質問の答えがわかるかもしれないというのです。実は当時、私は夢への大きな不安を抱えていました。彼はそんな私の心を見抜き、この本を紹介してくれたのです。この本を読んだおかげで、私の運命は大きく変わりました。本はときに人生の大きな手助けになるのかもしれない。 あなたも魔法のクローバーを見つけてみませんか。
20	ルーズヴェルト・ゲーム	池井戸潤	講談社	2012年	野球好きなルーズヴェルト大統領が一番面白いと言った8対7のゲーム。これを題名に掲げ、一企業の復活と再生をかけて登場人物たちが大逆転劇を展開します。 人生は思い通りにはいかないことが多いですね。挫折を経験しながらも、励まされ、自らを鼓舞して諦めずにピンチに立ち向かう。それぞれの人生の中で、一人一人がプライドを保ち、あきらめずに立ち向かうのです。これから社会へと出ていく高校生のみなさんにぜひその姿を見てほしいのです。 流行語大賞で話題になった、TBS系ドラマ半沢直樹の原作者、池井戸先生の作品です。同名のタイトルで、テレビドラマ化された原作です。町工場で、デジタルカメラに搭載するイメージセンサーの開発を巡って、他社との競合で、幾度と倒産に追い込まれながら、同時に会社が運営する社会人野球部存続を賭けた社員たちの葛藤とが絡み合い、物語は進展していきます。ドラマ撮影時では、地元愛知県豊橋市でロケが行われて、郷土愛も誘われます。ドラマとの違いを探しながら読むのも楽しみの一つです。逆転につぐ、逆転。さて、結末はいかに？ 高視聴率であったテレビドラマの原作です。景気悪化で業績が落ち込んだ中堅規模の電子部品メーカーの復活とその企業の野球部の廃部の危機を打開する奮闘を絡み合わせながら、ストーリーは進行していきます。野球に興味がある人もそうでない人も読んでいくうちに、話の内容に引き込まれていきます。逆境に陥っているなかでベストの戦力でなくても、みんなで120%の力を出して、解決していくところに魅力を感じます。 この作品を読み始めると、話の先が知りたくなり、完読します。ぜひ、読んでみてください。
21	下町ロケット	池井戸潤	小学館	2010年	「会社に倫理など必要ない。」そう言い切る大企業の横暴に立ち向かうのは、技術力が武器の中小企業、佃製作所。佃が持つロケット水素エンジンをめぐる大企業との息をのむ技術特許裁判。それに勝利した後に訪れたのは、ロケットエンジン部品供給に拘る佃社長と、特許使用料による経営安泰を求める社員たちとのせめぎ合い。次から次へと立ち上がる壁を乗り越えて、ロケットは無事に宇宙へ旅立てるのか？ 「もの作りの醍醐味」と、ハラハラドキドキの「大逆転劇の爽快感」を堪能できます。「壁」と見えるものは、実は「成功への扉」なのだということを見せてくれる作品です。 自分は将来どんな仕事に就けるのか、入ってみてブラック企業ならどうしよう・・・そんな悩みを超えて、「仕事とは」「生きるとは」を考えさせてくれる本です。最先端の研究者であった主人公は研究失敗の責任をとり、家業の町工場をつぎます。様々な難局に立ち向かいギリギリ乗り切っていますが、「ものづくりの夢は部品ひとつにもつまっているんだ」と、熱い思いが湧いてきます。胸のすくようなラストまで一気に読める本です。どんな仕事だって、まわりの何かと繋がり、社会を動かす力になるんだと、元氣と勇気をもたらえる気がします。
22	岩波ジュニア新書 272 科学の考え方・学び方	池内了	岩波書店	1996年	皆さんが生まれる前に出版されましたが、「科学との付き合い方」について易しい表現でとてもわかりやすく書かれた本で、少しも古さを感じさせません。東北の震災は科学技術のもろさや限界を考えるきっかけになったことでしょう。中学生や高校生のあなた方は、これからの社会を築いていくこととなります。そんな皆さんに、市民として科学への向き合い方を身につけるために、誰もが理科や数学を学ばなければならぬこの時期にぜひとも読んで欲しい本です。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
23	世界を変えた10冊の本	池上彰	文春文庫	2011年	ネット中心の世の中で青春を謳歌するみなさんは「本が世界を変える」と聞いても、眉唾物かもしれません。しかし、この本で紹介されている10冊は本当に世界を変えました。しかも今に至るまで強い影響力を持ち続けています。みなさんが生きているその社会をつくってきた10冊と言えますが、いかんせん敷居が高い作品ばかりです。そこで、まずは、池上さんの名調子で10冊を通読してみるのはいかがでしょうか。ダーウィン、マルクスからアンネフランクに至るまで、世界を変えた10冊がみなさんの脳内世界を刺激するはずです。
24	14歳からのお金の話	池上彰	マガジンハウス	2008年	物々交換から始まってどのようにお金へと発展したかの経緯や経済のこと、景気のこと、市場のことなどわかりやすく学べます。日本は資本主義という仕組みで動いていますが、資源には限りがあり、環境を壊さず、人々がものを大事にし、工夫して生活しなければなりません。世の中のしくみを知り、お金に振り回されない人生にするためにおすすめの一冊です。
25	池上彰のやさしい教養講座	池上彰	日本経済新聞社	2014年	学校で学ぶことだけでなく、日頃耳にする様々なニュースや情報を理解するのに必要な基礎知識が簡単に身につきます。それからは、さらに様々な事柄に興味・関心が高まり、視野も広げることができるでしょう。学力の向上、小論文対策にも大いに有効です。
26	【図解】池上彰の経済のニュースが おもしろいほどわかる本	池上彰	中経出版	2011年	皆さんは普段経済ニュースを見ていますか？新聞やインターネットでいろいろな経済ニュースが報道されていますが、難しい専門用語が一杯あって何を言っているのかわからないという人も多いかと思いますが。この本は、外国為替市場、デフレ、TPP、そのような経済ニュースの難しい専門用語を図解を用いてわかりやすく解説してくれます。経済に関心はあるけれど、専門用語の難しさに悩んでいる人にお勧めの一冊です。
27	きみのためのバラ	池澤夏樹	新潮社	2007年	確かな文章力、想像力の価値をあらためて思う内容の短編集です。世界のいろいろな国を舞台に、一つ一つの話のテーマは違いますが、日常の中の不安や憧れ夢や現実彩られる心の陰影を、静謐な文章で紡いだ八つの短編から成っています。その土地土地での人間模様が、繊細かつさりげなく展開される中に、つらく厳しいものであっても人生は肯定される刻を持つ、という主題が通奏低音のごとく感じられます。それぞれ趣が異なる短編小説ですから、気に入る一編が見つかるでしょう。それは、「es para ti」(きみのためのバラ)。
28	世界がもし100人の村だったら	池田香代子	マガジンハウス	2001年	「今朝、目が覚めたときあなたは今日という日にわくわくしましたか？今夜、眠るときあなたは今日という日にとくりと満足できそうですか？今いるところが、こよなく大切にしたいと思いますか？」この問い掛けにあなたはなんと答えますか？この本を読むと今感じている気持ちがきっと変わるはずです。日本以外の国ではどんな環境で生活している人がいるのか。どんな気持ちで一日一日を生きているのか。今まで知らなかったこと、驚くことがこの本にはたくさん詰まっています。日々の生活に不安や不満を持っているあなたには是非読んでほしい一冊です。
29	4TEEN	石田衣良	新潮社	2005年	あなたが中学生だった頃、将来のこと、そして今そばにいる友人や親についてどう思っていましたか。そして、今、高校生となってみて、「あのころ」をふりかえり、また共感できる本だと思います。
30	ノボさん 小説 正岡子規と夏目漱石	伊集院静	講談社	2013年	正岡子規も夏目漱石も、高校生なら誰でも知っている明治を代表する文学者です。もしかすると、正岡子規については何をしたのかよくわからない、という人もいるかもしれません。何かを成し遂げたいと望むこと、これはみなさんの誰もが持つ思いではないでしょうか。そして走り続け、達成感もないまま35年で人生を終えてしまった、これが正岡子規です。しかし、振り返ったり、総括したりする暇もないほど走り続けた、この生き方こそが何かを成し遂げる人の条件なのかもしれません。
31	想像ラジオ	いとうせいこう	河出書房新社	2013年	エジソンは霊界ラジオを考案しました。また、死後の世界から必ずメッセージを送ると言い残した人がいます。死後の世界の話は数多くありますが、いずれも成功していない様子です。死者との対話を多くの人が望んでいるのかも知れません。この本の楽しいところは、生きている者と死んだ者がいて、死んだ者に近い側にいる人たち(成仏する前ということか?)が想像ラジオを通して自由に対話している、そんな様子です。主人公のラジオDJさんが陽気なので、この本を取っ付きやすくしています。想像ラジオは身近な人の大切さを教えてください。
32	だいじょうぶだいじょうぶ	いとうひろし	講談社	1995年	みなさんには、おじいちゃん、おばあちゃんはいませんか？おじいちゃんやおばあちゃんとお散歩をしたことはありますか？この本に出てくる「ぼく」は、おじいちゃんと一緒に家の近くをお散歩しながら、いろいろなことを体験します。そして、不安になることがあります。そんな「ぼく」を、おじいちゃんはいつも側で優しく見守ってくれたり、励ましてくれたりします。いつもお迎えにきてもらっている人、夏休みに遊びに行くことを楽しみにしている人。いつもみんなに優しくしてくれる大好きなおじいちゃん、おばあちゃんのことを思い出しながら読んでみて下さい。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
33	敦煌	井上靖	徳間書店	1987年	『敦煌』は、1900年に莫高窟から発見された『敦煌文獻』の事由を題材に展開される歴史小説である。北宋の時代、科挙に落ち落胆する趙行徳は、西夏女を救い布切れを貰う。そこに書かれた西夏文字に興味を引かれ運命の西域へと旅立つ。シルクロードを舞台とする宋、西夏、回鶻の抗争に翻弄されながら、命を賭して経典を隠す行徳。彼を取り巻く西夏の漢人部隊長朱王礼、貿易商人尉遲光、回鶻の王族の娘、そして西夏の王李元昊。いつの間にか荒涼たる大地で展開される壮大な歴史ロマンに引き込まれていくお薦めの一冊である。
34	さようなら、オレンジ	岩城けい	筑摩書房	2013年	母国を遠く離れ、母語が通じない異文化の中で懸命に生きる難民サリマ。サリマのように、生きる術を持たない人々は、自らのアイデンティティすら手放し、動揺し、あきらめてやがて社会の底辺に埋もれていきます。が、サリマはあきらめません。何も持たないからこそ、彼女は「言葉」の持つ「力」に挑んでいきます。不安や孤独の中で、新しい言葉を獲得しようともがく彼女を通して、読者は、「言語」が支える「人間の尊厳」の根源的な姿に感動するのです。
35	図解 マナー以前の社会人の基本	岩下宣子	講談社	2007年	普段食事中に箸の先をなめたり、1本ずつ両手に持って料理をちぎったりしていませんか？これはしてはいけない箸の使い方になります。食事のマナーは他にも食べ方で、ピザやそば、春巻き、シュークリームなど和洋中いろいろあります。また結婚祝いや香典で包む金額など知っていますか。卒業をして社会に出ると知らなければいけないこと、知っておくべきことが、約300項目が紹介されています。聞いたことがあるマナーやまったく知らないマナーなど、挿絵も入っていて分かりやすく書いています。関心をもった項目から読んでみてください。
36	武器より一冊の本をください	ヴィヴィアナ・マツァ	金の星社	2013年	2012年10月9日、15歳の少女が通学途中で銃撃にあった。少女の名前は、マララ・ユスフザイ。ただただ、勉強がしたいと願う少女だった。場所は、パキスタン。なぜ、少女は銃撃されたのか。襲撃の半年後、イギリスで復学したマララには、パキスタンからなおも絶え間なく脅迫が届いた。それでもマララは、ひるまない。「一人の子ども、一人の教師、1冊の本、そして1本のペンが、世界を変えられるのです。」マララの国連での演説はすばらしいものでした。今一度、この演説の意義を考えて見ましょう。
37	夜と霧 新版	ヴィクトール・E・フランクル 著／池田香代子 訳	みすず書房	2002年	<p>強制収容所から奇跡的な生還を果たした精神科医の記録。現代の社会ではまずあり得ない記録となっています。過酷な環境の中では、心の支え、つまり生きる目的を持つことが生き残る唯一の道であると説いています。また、収容所の中でどれほど人間が醜くなるのか、どれほど美しくなれるのか。この本を読み自問自答するが、美しく振る舞い、生き残ることは、全くと言っていいほど自信がありません。ただ、私はこの本を読んでからしばしば夕焼けを見て立ちすくむことがある。迷わず高校生にすすめる一冊です。写真の付いている旧版もおすすめです。</p> <p>人生に絶望し、生きることを意味を見失いそうな時、あるかもしれませんね。この本はナチスの強制収容所から生還したユダヤ人精神科医である著者が、収容所内の人々の心理や行動を考察し、「生きる」ことの本質を語りかけてくれる名作です。「生きることから何かを期待するのではなく、むしろひたすら、生きることが私たちに何を期待しているかが問題だ」という考えにコペルニクス的転回を感じます。すべての尊厳を奪われた過酷な状況においても、心の世界、愛する人を思う心、未来への希望を失わない人々の姿が、生きる勇気を与えてくれます。</p> <p>本の中に、こんなことが書いてあります。「わたしたちはためらわず言うことができる。いい人は帰ってこなかった」と。これはどういうことでしょうか。著者フランクルさんは、強制収容所アウシュビッツから生還した人です。いつ自分の死がやってくるかという不安との戦いの日々を過ごし、混乱と飢餓に耐えたのです。でも最愛の妻とは永遠に再会することはできませんでした。収容所で何が行われたのか。戦争の事実の一つを知ってほしいと思います。「いい人」とはどういうことなのかを考える一助にさせていただけたらと思います。</p> <p>いろいろな意味でこの本は特別なんですよね。作者は心理学者、精神科医で、アウシュビッツ収容所の体験、いわゆる限界状況の中で人間の心理が見事に分析されています。読後、苦しい事があっても、この本を思い出して、それに比べればと些末なものだと自分に言い聞かせ、乗り切れてしまう不思議な力を持った本です。生きるとは何か、はたまた良心とは何かといった人間の本質的なテーマにも問いかけてくる、まさに一生に一度出会えるかどうかの衝撃的でいつまでも余韻にひたることのできる本です。</p>
38	魔法の糸—ところが豊かになる世界の寓話・説話・逸話100選	William J. Bennett 著／大地舜 訳	実務教育出版	1997年	どこからでも読み始めることができる本です。世界中から集めた、心をつつ、暖かくて優しい話の数々が読者の心をしっかりとらえて離しません。あなたが、どうしようもなかつらいとき、人生の大きな壁にぶつかったとき、この中の話のどれかがそれを乗り越えるきっかけを与えてくれることでしょう。
39	隣のアボリジニ	上橋菜穂子	筑摩書房	2000年	オーストラリアの先住民、アボリジニ。彼らについて、どんなイメージを持っているでしょうか。大自然に生き、独自の生活スタイルを持つ人々？ 伝統文化を重んじる歴史ある民族？ しかしその一方で、白人と同じように暮らす伝統文化を失ったアボリジニも多く存在しているのです。著者がオーストラリアでのフィールドワークを通して知った、アボリジニたちの姿とは…。図書館でも人気の守り人シリーズや獣の奏者などの著者でもあり、今年アンデルセン賞を受賞した上橋菜穂子さんの、文化人類学者としての一面を見ることができる一冊。世界を多面的に見ることの大切さを教えてくださいませよ。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
40	NASAより宇宙に近い町工場	植松努	ディスカヴァー・トゥエンティワン	2009年	皆さんの夢は何ですか。保育士になりたい、〇〇大学に入学したい、お金を稼ぎたいと考えている人やまだ夢が見つからない人もいるかもしれませんね。本当の夢っていったい何でしょうか。実現できそうなのが夢、それとも実現できそうもないのが夢なのでしょう。この本は、北海道赤平市という町で小さな工場を営みながら、宇宙ロケット開発に情熱を注ぐ著者が、「夢というのは追いつけば、必ず叶うチャンスがやってくる」と、夢をもつことの大切さやあきらめない生き方を自身の体験を基に教えてくれる一冊です。
41	園芸少年	魚住直子	講談社	2009年	篠崎達也は、自分の性分に合いそうな高校に合格した。「まあ部活も入らずにゆったり過ごそう。」と考えていた。4月早々、校内の隠れ家的な場所で、大和田一平と出会い、ちょっとした弾みから部員0名の園芸部に入部することになる。2人がいつものように花に水やりをするために倉庫の裏に行くと、そこには段ボールの箱をかぶった人間がいた。とても読みやすい。元気になる一冊。
42	下流志向～学ばない子どもたち 働かない若者たち～	内田樹	講談社(講談社文庫)	2009年	上流ではなく「下流志向」という、なんとも後ろ向きな題名に違和感を覚えるかもしれないが、読み進めていけばいほど今の教育や、若者が直面している問題が胃の腑に収まるんだな、これが。高度経済成長の頃、高校生だった先生(推薦者)なんかは、受験に必要な勉強は三年からで、文系でも物理や化学の授業を受けていた。あらゆる学問のジャンルを学ぶのが高校生のカリキュラムだったわけだ。しかし、それがいつからか、教育にも市場原理が導入され「目的化」した「学び」に変容していき、勉強がつまらなくなってしまった。そもそも学習は「面白い」のに、である。何ものにも囚われない自由な学びとは何かを「学び」たい人は、是非是非読んでください。目からウロコがぼろぼろ落ちますよ。
43	いのちをいただく	内田美智子	講談社	2013年	これは創作絵本です。何気なくタイトルを見たとき「これ、どうのこと？」と気になり、手に取ってみました。するとどうでしょう、そこには考えさせられる問題が山積みでした。父親の仕事について、昔の前でちゃんと説明ができなかった主人公の授業参観から話は始まり、「私だったらどうするだろう」とか「生きるということは、どうのことなのだろう」とか、改めてあれこれ考えさせられました。短時間で読め、テーマが深いことを考え合わせると是非読んでほしい一冊です。しかも進路決定を迫られている高校生には、これからをどう生きて行くのかを考えると大切なヒントを与えてくれるのではないかと思います。
44	天地明察	冲方丁	角川書店	2009年	江戸時代に日本独自の暦を作った男の物語。数学者関孝和、基打ちの本因坊秀作、そして数学者・天文学者にして基打ちの主人公公洪川春海。ひたむきに己の道を突き進む者たちの姿を通じて、学問の厳しさや尽きせぬ魅力が伝わってきます。主人公の実直、誠実そして奮闘ぶりは君たちに勇気を与えてくれることでしょう。長編ですが、ストーリーに引きつけられて一気に読んでしまいます。
45	はなどゆめ	冲方丁	角川書店	2013年	男は男に惚れるのか。女は、女に惚れるのか。惚れるとは、性別問わず相手に魅了されることをいう。平安時代。一人の女性に惚れた女が居た。女の名は、清少納言。相手は、中宮定子。定子は権力の中核に位置する家系に生まれ天皇の寵愛を一身に受けるが、父の死後、徐々にその地位を脅かされていく……。その側近く仕え、支え、心を通わせあった清少納言。彼女から見た定子の素晴らしさ、共に過ごす日々。それが余すことなく描かれている。古文でもおなじみの「海月の骨」や「香炉峰の雪」の話なども交えながら、定子を敬愛してやまなかった清少納言を通して、その素晴らしさを感じられる一冊。
46	じいちゃんさま	梅佳代	リトル・モア	2008年	全然知らない人たちののに、見ていて何度も吹き出してしまうたり、ずっと眺めてしまったり…。写真家の梅佳代が、何気ない家族の日常を10年間に渡って写真に収めた祖父と家族のポートレートです。「わたしが写真を撮るとれば、じいちゃんは死ななかも」というおまじないのようなことばと反して、確実に「その日」は静かに近づいてきている訳で、そんな現実を当たり前のように受け入れつつも、自然に明るく過ごしている家庭の姿がすてきです。
47	つめたいよるに	江國香織	新潮社	1996年	教科書にも載っている「デューク」「草之丞の話」をはじめ、幻想的で心にじ～んとくる短編集。1作1作が短編なので、電車での通学時間や朝読の時にもおすすめ。
48	沈黙	遠藤周作	新潮社	1966年	島原の乱が鎮圧されて間もない江戸初期、キリシタン禁制の日本に密入国したポルトガル人司祭・ロドリゴは、日本人信徒たちに加えられる拷問と悲惨な殉教のうめき声に接し、苦悩の果てに背教行為に至ります。この本は、神の存在、背教の心理、西洋と日本の思想的対立など、キリスト信仰の根源的な問題を衝き、「神の沈黙」という永遠の主題に切実な問いを投げかけ、さらには、人間が自身の弱さや愚かさにどう向き合うのかという普遍的テーマを描いたものです。是非、読んでみてください。
49	おバカさん	遠藤周作	角川文庫	1962年	主人公のガストン・ボナバルトは、かのナポレオンの末裔です。その人柄は、ドジでお人好し、何でもすぐに信じて、だまされてしまいますが、諦めること、疑うこと、くじけることを知りません。その純粋な心は現代版のキリスト像として読むこともできます。作者の遠藤周作は弱い立場にある人の生き様を数多く描いてきました。読者は、その生き様を見て、自分がいかに生きるかを考えることができます。この作品を読んで、どのような人生を送るのが格好いいのか、考えてみるのもきっと面白いはずですよ。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
50	エール！ 1	大崎梢 他	実業之日本社	2012年	私たちは生まれた以上、生きていかなければなりません。生きることは、食べることである、あるいは愛することである…とさまざまに定義できるかと思いますが、定義の一つとして、生きることは働くことであるといえます。この「エール！」という本(1～3まで発行)は、働く女性たちを描きます。彼女たちは悩んだり、へこんだりしながらも、一生懸命働いて、生きています。さまざまな職業―漫画家、通信講座講師、プラネタリウム解説員、ディスプレイデザイナー、スポーツライター、ツアーコンダクターなど―の私たちが知れない苦労や喜びを感じられる作品です。何より働くことを楽しみにさせてくれる本だと思います。
51	聖の青春	大崎善生	講談社(文庫)	2002年	この本は29歳で亡くなったプロ棋士(将棋)の伝記です。プロ棋士は、たった1人の名人を頂点にランク付けされ、弱いものは廃業するしかないという極端な実力社会です。主人公は、幼い頃から病魔と闘い、病床で覚えた将棋でプロを目指します。数々の障害を乗り越えて、頂点の名人挑戦まであと一歩のA級にまで上り詰めながら、不治の病のためこの世を去ったのです。この話は、決して美談とはいえないかもしれませんが、しかし、全力で生き抜いた、せつなくも美しい彼の人生は、心をうつものがあります。将棋のことをまったく知らなくても、読む障害にはなりません。ちなみに、聖は《さとし》と読みます。主人公の名前です。余談ですが、羽海野チカ「3月のライオン」という漫画では、明らかに彼をモデルにしたであろう人物が登場しています。
52	思考術	大澤真幸	河出書房新社	2013年	本書は、「読んで考えるということ」というタイトルで行われた3回の講義を基にして構成されています。第1回は社会科学編、第2回は文学編、そして第3回は自然科学編として、それぞれのテーマに沿って選ばれた各数冊の本の紹介がされています。そしてそのテーマの核心について、語り手(書き手)である大澤氏が、書物の批評をしながら読者と共に思考を深めていくストーリー仕掛けになっています。テーマは、<時間>・<罪>・<神>と設定されていますが、それぞれのテーマで展開される書評の問題意識が緩やかに繋がっており、<読みながらテーマについて考え、また考えながら次の1冊を読む>という、らせん状に思考が運動していくプロセスを体感できます。読者の皆さんは、「テーマを持って書物を読む楽しみ、考えを深化させるために書物を探求する楽しみ」を経験することでしょう。驚きは<社会科学><人文科学><自然科学>の広大な領域の紹介が、大きな一つの問題意識が繋がっていることを実感できることです。さらに序章には「思考術原論」、結びには「そして、書くということ」の章が組まれており、<読むこと><考えること>が共鳴する様子を私たちに示してくれています。
53	白鳥異伝	荻原規子	徳間書店	1996年	ヤマトタケル伝説をベースにした児童文学です。読みやすいけれど、読み応えは充分。「日本神話なんて難しそう」と思う人もいるかもしれませんが、冒険有り・恋愛有りで、読み始めたらすぐにページをめくる手が止まらなくなります。普段は西洋ファンタジーに接することが多いと思いますが、この作品のように古代日本を舞台にした世界観にも触れてみてください。そして、皆さんと同年代の魅力的な登場人物たちが数奇な運命に翻弄される中で、迷い、悩み、成長していく過程を、ドキドキ、ハラハラしながら味わってほしいと思います。
54	空色勾玉	荻原規子	徳間書店(福武書店)	1996年(1988年)	物語の舞台は『古事記』の神話の時代。神に連なる照日王・月代王を中心とした「輝(かく)の一族」と、それに対抗する「闇(くら)の一族」の戦いを背景に、主人公狭也(さや)が「自分にできることは何なのか」を自分に問い、行動する物語です。…という難しいことは考えず、高校生だった私は、「狭也の恋はどうなるの?」「輝が正義じゃないの?」など、ハラハラドキドキしながらあつという間にこの本を読み終わってしまいました。きっと今の高校生もこの気持ちを感じてくれるはずです。オススメです。
55	十二番目の天使	オグ・マンディーノ 著／坂本貢一 訳	求龍堂	2006年	最近、何に感動しましたか？ 何度も泣きながら読んだ本がありますか？ 一人の男の栄光と悲劇、そして自殺願望。そこから救ってくれるのが小さな野球少年(天使)との出逢い。 人は他人の為に生きること生きることの意味を見つけ、心豊かに逞しく救われていく。 天使の口癖「毎日、あらゆる面でどんどん良くなる!」「絶対諦めるな!」は、チーム全員が合唱し、観客席全体から聞こえてくる。どんなに絶望的な状況でも、人はひたむきに優しく生きていける。落ち込み悲しむ時、元氣や勇氣を与えてくれます。 単純明快な内容であるため、結末が予想できてしまいますが、物語の世界に引き込まれ最後まで一気に読破していきます。読後には当たり前だと思っていることが当たり前でないと悟ることができたり、人は皆、大勢の人に見守られながら生きていることに気づけたりします。そして、勇氣を持つこと、元氣でいること、感謝の気持ちを忘れないことの大切さを改めて理解し、今の自分の生活を省みることにつながっていきます。 不透明な時代だからこそ、本質を見失わないために読んでもらいたい本です。
56	なつかしい時間	長田弘	岩波新書	2013年	本書は詩人である著者がNHKテレビ「視点・論点」のために書いた17年間48回分の放映原稿をまとめたものです。それぞれの文章は、「誰の目にも見えているが、誰も見えていない」ものに気付かせてくれます。本書には、「たとえ自分ではそう思っていないとも、じつは風景のなかで感じ、思い、考えるということが、わたしたちの日々の生き方の姿勢をつくっています」という一文があります。現代では何事もクローズアップで考えがちですが、本書を参考に君たちも生きた世界を、「全体を見るはるかす視点」から見つめ直してみませんか。
57	五体不満足	乙武洋匡	講談社文庫	1998年	この本の中で「障害は不便だが不幸ではない」という言葉があります。みなさんは、この言葉をどう考えますか？乙武さんは生まれつき手と足がない状態で生まれ、それを「単なる身体的特徴」と捉え、明るく学校生活を送りました。人が、何かを乗り越えていくには、まずどんなことにも前向きになりそこへ向かって挑戦していくことだと思います。是非、この本を手にとって、自分の生き方について考える一冊にしてみてくださいませんか？
58	十二国記 風の万里 黎明の空	小野不由美	講談社	1994年	人には大小様々な壁があって、日々それらと戦っている。本作品でも治世に悩む女王、運命の公平性を嘆く元女王、目の前の子どもの命を守れず悔やむ少女の三人が登場し、自身の前に立ちはだか壁に向かっていく。ファンタジーの世界を舞台としながらも扱われるのは人間の心そのもの。決して遠い国のお話とは思ってはいけません。本作を読み進め、三人それぞれの壁が取り払われていくのと同時に、読んでいる我々の心もどこか晴れ晴れとしているはずだ。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
59	月の影 影の海 (上)(下) 十二国記	小野不由美	新潮文庫	1992年	いきなり異世界に放り込まれたら、君ならどうしますか？この物語では普通の女子高生、陽子が、突然異世界の十二国に連れ去られ、たった一人で生きていかなければならなくなってしまいます。そこで陽子は色々な出会いと経験を重ね、「わたしは、必ず、生きて帰る」という思いを胸に、一人の人間として成長していきます。あなたもきっと共感できる場所もあると思います。十二国記はシリーズ物で続編も刊行中。一見して「これってラノベ？」という声も聞こえてきそうですが、大人でも十分楽しめる壮大な物語です。ぜひとも全巻読破してみましょう。
	月の影 影の海	小野不由美	新潮社	2012年	普通の女子高生、陽子が、ある日異形の使者に半ば強引に連れ去られ漂着した先は、王と麒麟によって治められる十二の国からなる異世界。陽子はその世界で、他者から酷い仕打ちを受け、利用され裏切られて、自暴自棄になりながらも、信頼できる友を得て、自分自身の正しい在り方を見出し、確立していきます。彼女の試練と成長を胸の痛くなるような共感とともに堪能できる、単なる異世界ファンタジーにとどまらない骨太で読み応えのある小説です。これを読み終えたら、他の『十二国記』シリーズを読み進めたいくなることまちがいない！
60	アヴェ・マリアのヴァイオリン	香川宜子	角川書店	2013年	戦争とは悲惨なものです。第二次世界大戦でのドイツ・アウシュヴィッツ収容所は正しくそのものでした。ユダヤ人への意味のない迫害、人を人とも思わない残酷な行為は想像を絶するものでした。しかしどんな境遇にいても心の支えとなる何かがあれば強くたくましく生き抜くことができるのです。アヴェ・マリア・ヴァイオリンの持ち主だったユダヤ人ハンナはヴァイオリンがあったからこそ過酷な人生を生き抜くことができたのです。次の持ち主である少女あすかと一緒にあなたも戦争のない世界を考えてみませんか。
61	さがしもの	角田光代	新潮社 (新潮文庫)	2008年	このお話を読書会で討論しました。言葉はきつけれど本当は優しいおばあちゃん、よく泣くお母さん、そして二人を大切に思う芯の強い娘の、三世代の性格の違いを、「魚で例えるとサバ、鰯、スズキ」と発表した班があり、皆で爆笑しました。娘はおばあちゃんの死を通して、本を探している人の気持ちが変わり、一人一人のさがしもの(求めるもの、生き方、目標、夢)の大切さを知りました。だからこそ、娘は誰かの為に「だいじょうぶです、必ず見つけます」と答えたのでしょうか。さあ、あなたにとって「さがしもの」は何ですか？
62	わたしを離さないで	カズオ・イシグロ	早川書房	2008年	カズオ・イシグロという作家を知っていますか。彼は日本で生まれ、現在はイギリス国籍を取得し、英語で執筆しています。今回紹介する「わたしを離さないで」もNever Let Me Goという作品の翻訳です。物語の語り手キャンシーはある施設で暮らした過去を持っています。彼女の回想を通して、読者はその施設の異様さと、その理由を徐々に知ることになります。「生きる」ことの意味や生命の大切さを、登場人物の生き方を通して改めて問い直すことのできる作品です。ぜひ一度手にとってみてください。興味のある人は英語で原作を味わってみるのもおすすめです。
63	われ日本海の橋とならん	加藤嘉一	ダイヤモンド社	2011年	著者の加藤さんは、山梨学院大学附属高校から北京大学に中国政府の官費留学生として学部4年間と大学院の2年間学んでいます。日本の学校教育に納まらない能力を開花させています。中国のあり様をこの本から学ぶのも興味をそそるのですが、加藤さんの語学に対する心構えと学び方にとっても感じいりました。例えばSARS問題で北京大学が休講中、大学の売店のおばさん達と世間話9時間、単語の読み書き2時間、人民日報の音読、ラジオで中国語放送を聞くという中国語漬けの生活を、半年でネイティブなみの中国を話すようになっていることです。
64	GO	金城一紀	講談社	2000年	「国籍は金で買えるぞ。おまえはどの国を買いたい？」そんな風に問われたら、なんと答えますか？この本の主人公は“在日朝鮮人”の『杉原』。周りから“在日”と差別されても動じず、孤独を受け止めて生きる姿は爽快で、カッコいい。彼は日本人の女の子に恋をすることで自分は何者なのか悩むようになりますが、その姿は、彼が何者であったとしても、君たちと同じ「普通の」高校生に見える。彼の悩みを通して、自分のことを考えるきっかけになるかもしれません。読後はすっきり、清々しい気分になれますよ。
65	83歳の女子高生球児	上中別府チエ	主婦の友社	2013年	「中卒の資格もなく、幼い頃に勉強をしていなかったのに、世の中は知らないことばかり」そんな76歳のチエさんが思い切って夜間中学へ入り、もっと勉強したいとの思いから今度は80歳で夜間定時制高校へ入学し、しかも全国大会を狙うレベルの野球部に所属して、ついにはチームにも学校にもなくてはならない存在になっていくという実際のお話です。年齢に関係なく何事にもあきらめずに挑戦するチエさんの姿勢や人柄に憧れを覚え、そして必ず勇氣・元気が湧いてきますよ。様々な生徒が通う定時制高校ならではの心温まる感動の実話です。
66	こころの処方箋	河合隼雄	新潮社(新潮文庫)	1998年	河合隼雄さんは、日本人のこころの問題を一生かけて考え抜きました。この本は河合さんが某雑誌に毎月発表したものです。私はその雑誌を手にとると、まず河合さんのこの文章を読み、その他の文章はあまり読まなかった覚えがあります。毎月河合さんの文章を読むのが楽しかったです。連載終了後、1冊の本にまとめられたときも、すぐ購入して読み直しました。深いことが分かりやすく、ユーモアたっぷりに書かれています。凡百の心理学の本が、束になってこの本にはなかなか太刀打ちできないと思います。初めから読まなくても、まず関心のあるところから読んでみましょう。
67	嫌われる勇氣	岸見一郎／古賀史健	ダイヤモンド社	2013年	日本で心理学と言えば、フロイト、ユングが有名ですが、世界的には彼らと並び評される人物にアルフレッド・アドラーがいます。フロイトが現在の行動の原因を過去に求めるのに対して、彼の考えは、未来指向型ともいえる発想の違いがあります。過去に原因がある限り、改善しづらい「トラウマ」の考えを否定し、「人間の悩みは、すべて対人関係の悩みである」と断言し、対人関係を改善していくための具体策を提示するのが、アドラー心理学です。思春期に様々な悩み対峙する皆さんに、違った視点で物事を捉えるきっかけを与えてくれるはずです。哲学者と青年の対話形式によってその思想を分かりやすく解説してくれる一冊です。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
68	「手紙屋」蛍雪篇—私の受験勉強を変えた十通の手紙	喜多川泰	ディスカヴァー トゥエンティワン	2008年	<p>勉強とは、受験とは何かを考えさせられる本です。この本を読むことで自分なりの考え方で勉強に取り組むことができるのではないかと思います。自分が嫌いだっただ科目も楽しく勉強できたかもしれない。今になって多くを学びたいです。この本を一人でも多くの高校生に読んでほしいと思います。「学ぶ」ことの大切さ、ありがたさ、面白さに触れてみてください。</p> <p>皆さんは進路に悩んでいませんか。受験を終えてやっと高校生になったのに、今度は高校卒業後の進路を考えなくてはなりません。大学進学、専門学校、就職などの選択肢がありますが、勉強がきらいだから就職するとか、どんな仕事がしたいのかまだわからないから、とりあえず大学に行くとか考えていませんか。私がおすすめるこの本はそんな進路に悩んでいる女子高生が主人公です。同じ悩みを持つ皆さんにきつと解決のヒントをもたらしてくれると思います。できればわたしが受験生の時に読みたかったです。著者の『「手紙屋」』も就職希望の方におすすめです。</p>
69	「また、必ず会おう」と誰もが言った	喜多川泰	サンマーク出版	2010年	<p>心が、ほわっと温かくなりました。今年の夏休み、皆さんは、どのように過ごしているでしょうか？主人公は皆さんと同じ高校生。彼は夏休みの最後の5日間で自分のウソから始まる冒険をしました。それは机上の勉強では体験できないことばかり。でも、誰もが持っている優しさで温かさで物語は紡がれていきます。人との繋がりで学び得た体験は、たったの5日間で彼を成長させました。きっかけは誰かの一言。あなたの心にも響く一言を、この本から見つけてね。そして、いろいろな出会いを大切に。</p>
70	六の宮の姫君	北村薫	東京創元社(創元推理文庫)	1999年	<p>「勉強するって、何をすればいいの？」高校までと違って、「教科」の枠がない大学では、自分の好きなことを勉強できるんだって。でも、「自分の好きなことって？」「どうやって勉強すればいい？」疑問は尽きませんよね。この本の主人公は、文学部の大学4年生の(私)。ひょんなことから、芥川龍之介の短編「六の宮の姫君」を探偵していきます。そのやりかたは、まさに「学問」のお手本！きつとあなたも大学へのあこがれを持つことでしょう。実はこの本、シリーズの第4作目。「日常の謎」を解き明かす他の作品も、ぜひ読んでください。</p>
71	どくとるマンボウ青春記	北杜夫	中央公論新社	1981年	<p>青春とは、明るい、華やかな、生気に満ちたものであろうか。それとも、もつとらぶれて陰鬱な抑圧されたものであろうか。歌人斎藤茂吉を父に持つ北杜夫は、『どくとるマンボウ青春記』で独特のユーモアを交え自分の青春を振り返ります。この本は、次のようにして終わります。【杜夫は茂吉の死に接して、歌集『赤光』を読みながら、こういう歌を作った父はもうこの世にいないのだな、と繰返し考えます。そのとき、杜夫の手元には出世作『幽霊』の原稿がありました。】このように、1冊の本が、歌人と作家の人生の重さと父と子のつながりを今も無言で私たちに語りかけているのです。読書は人生を豊かにします。</p>
72	女子読みのススメ(岩波ジュニア新書754)	貴戸理恵	岩波書店	2013年	<p>若い女性作家による、若い女性を主人公にした、若い女性のための小説を、若い女性である著者がどう読むか？この本は、現代の若い女の子たちが日常的に向かい合うテーマ、「学校」「恋愛」「家族」「大人になること」について、様々な小説を紹介していきます。そこには「女の子」が「女性」へと成長する過程で感じる、生きづらさや悩み、そして希望が描かれています。読み進めるうちに、自分を取り巻く世界をガラリと変える一冊に出会えるかもしれません。もちろん男の子にも参考になること間違いなしです。</p>
73	「学問」はこんなにおもしろい！ 憲法・経済・商い・ウナギ	木村草太／安田洋祐／松井剛／青山潤	星海社新書	2014年	<p>30～40代の新進気鋭の大学の先生が、それぞれの専門分野である「法学(憲法)」、「経済学」、「商学(マーケティング)」、「農学(海洋生命科学)」を学ぶことの意味や面白さを語ってくれます。「大学時代にもっと勉強しておけばよかった」とコンプレックスを持った社会人1年生が、大学の先生にインタビューするという設定になっています。インタビュアーが社会人となっていますが、全体が対談形式で分かりやすいので、大学でどんなことを勉強するのか、どんなふうに勉強するのか、これから大学を目指す皆さんにも参考になると思います。</p>
74	ブルーのひみつ	工藤ケン	学研パブリッシング	2014年	<p>大きな文字でページ数も少ない絵本から、少しずつ、文字が小さくページ数も多い読み物へと読書の幅を広げられるとよいですね。今回は「ブルーのひみつ」という本を紹介しますが、この本はシリーズとなっていて「〇〇のひみつ」という本がたくさん出版されています。いろいろな「もの」や「こと」のひみつが分かって勉強になりますよ。</p>
75	いのちつぐ「みとりびと」1 恋ちゃん はじめての看取り	國森康弘(写真・文)	農文協	2012年	<p>みなさんは人を看取ったことはありますか？本の最初「看取りとは大切な人が息を引き取るその『旅立ち』のとき、そばに寄りそい、感謝と別れを交わすことです」と書かれています。いのちつぐ「みとりびと」シリーズは現在8巻まで出版されている写真絵本です。1巻から4巻までは写真家・ジャーナリストの國森康弘さんが、滋賀県のある集落で在宅医療を支える医師に同行取材をしてつくられました。家族が自宅でおばあちゃんの最期を看取る場面が、写真と温かな文章でつづられています。</p>
76	ふがいない僕は空を見た	窪美澄	新潮社	2010年	<p>この本を初めて手に取ったとき、確かこんなオビが付いていた。「女性による女性のためのR-18文学大賞受賞！！」この本を読み終えたとき、オビを本から外して捨てた。このオビが読者を限定していたら、もったいないと思ったから。確かに、物語は刺激的な描写から始まる。しかし私は大人代表として、「大人になる前の君たちこそが読むべきだ！」と言いたい。読んでぜひ感じてほしい。どん底に落ちてズダボロになった人間が、それでも自らの命を捨てずに生きていく姿を。そしてその姿が、どれほど眩しいのか。</p>

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
77	拙者は食えん！サムライ洋食事始	熊田忠雄	新潮社	2011年	幕末、開国した日本から多くの使節団が欧米へ向かいました。当時の日本とは全く異なる食生活を余儀なくされたサムライ達は、牛乳、油、肉などをふんだんに使った西洋料理の数々に苦悶します。米、野菜で育った日本人は、初めて口に洋食に閉口しながらも、次第にそれらに慣れていきますが、中にはどうしても口に合わず、猛烈な空腹に苦しむサムライもいました。「パンは気味悪く牛はさらなり、二日三日食事は一切いたさず、空腹耐へがたし。」異文化への対処法、心構えなど現代の私たちにも多くの示唆を与える歴史エッセイです。
78	私の欲しいものリスト	グレゴワール・ドラクール 著／中島さおり 訳	早川書房	2014年	あなたがもし宝くじが当たったら、夢の高額当選者！さて、生活は一変するのでしょうか？この作品は、フランスの田舎で手芸店を営み、夫と平凡な生活をしていた47歳の主婦が、何気なく購入した宝くじが、1800万ユーロ(2億5千万円くらい)もの高額当選となり、ある日突然億万長者になった物語です。そして主婦は様々な葛藤に悩まされていきます。果たして本当に欲しいものとは？本当の幸せとはいったいどんなものなのでしょう？人生に向き合う女性を描いたフランスのベストセラー小説です。映画化も決定し、国内上映も近いかも？
79	希望のつくり方	玄田有史	岩波新書	2010年	進路選択に際し、夢や希望を持っていう圧迫を日々受けているような気がする人はいませんか？著者、玄田有史さんは、東京大学「希望学プロジェクト」の中心人物です。その研究成果をやさしく紹介しながら、どうやって希望を「つくる」のかを説いたのが本書です。希望は与えられるものではなく、つくるもの。社会との関わりの中でつくれるもの。これらの知見を、調査結果から導き出していきます。この本により、「希望」をめぐる考えが、少ししなやかなものになるかもしれません。
80	コミュニケーションのレッスン 聞く・話す・交渉する	鴻上尚史	大和書房	2013年	自分のことを「コミ障」(コミュニケーション障害)だと言って自虐的になったり、自己嫌悪を感じたりしている人は多いと思います。そんなあなたにこの著者は「コミュニケーションは技術だ」「スポーツと同じでやればやれば上達する」「コミュニケーション下手はあなたの人格と何も関係がない」なんて言ってくれて、具体的に上達するテクニックを教えてください。ところで、あなたは毎朝、自分から先に挨拶していますか？気持ちの良い挨拶を自分から先にする。それだけでコミュニケーションは広がります。この本を読んで実践してみてください。
81	折れない自信をつくるシンプルな習慣	心屋仁之助	朝日新聞出版	2014年	皆さんは色々なことに自信を持って取り組んでいますか。人は多少自信を持っていることでも、簡単に自信を失ってしまうことがあります。筆者の考える「自信」とは「自分を信じること」。他人から認められようと、自分に付加価値をつけるために、一生懸命足し算でがんばるのではなく、「～しなきゃ好かれない」「～しなきゃ認められない」と思っていることを1つ1つ「やめる」「手放す」「断る」「手放す」で生きる勇気をもつことが大切であると説いています。疲れたときに読むと心がスーッと軽くなる本です。ぜひ手にとって読んでみてください。
82	職人学	小関智弘	日経ビジネス人文庫	2012年	都内の工業高校を卒業し町工場の旋盤工として30年以上にわたって、得てきた、「ものづくり」に対する考え方、職人魂、が伝わってくる。まさに、技術立国日本を作り上げた人たちの心がけが読み取れる。技術・技能分野に携わる若い人に向けた指導書である。
83	日経プレミアシリーズ230 巨大津波 地層からの警告	後藤和久	日本経済新聞出版社	2014年	2011年3月の東日本大震災は、津波による被害が極めて大きな災害でした。このような想定外の津波を推測する術はなかったのでしょうか。本書は、過去の巨大津波によって海岸付近から内陸に運ばれた大きな岩塊や砂の堆積層である「津波石」や「津波堆積物」が存在することを紹介しています。100年、1000年、10000年の時間スケールで何が起きるのかを思考する地質学の知見が、今後、発生する巨大津波の浸水地域などの推定に役立つことを、わかりやすく説明していて、大変、興味深い内容になっています。ぜひ、お読みください。
84	シャーロック・ホームズの冒険	コナン・ドイル 著／延原謙 訳	新潮社	1953年	シャーロック・ホームズの物語は世界で最も親しまれている探偵小説で、主人公のホームズは今なお「名探偵」の代名詞です。ホームズの観察眼は、私たちに「見る」と「観察」することの違いを教えてください。また、犯罪に立ち向かうタフな精神力と、バイタリティー溢れる行動力は読者に勇気を与えます。何よりも、強い好奇心をもつことのすばらしさをシャーロック・ホームズという個性的な主人公は教えてください。本書は短編集で、ホームズについて理解するに足る内容です。
85	5分で読める！ひと駅ストーリー乗車編	『このミステリーがすごい！』編集部 編	宝島社	2012年	あなたのお気に入りの作者はだれですか。そういった特定の作者を持たない人におすすめです。書名の通り、駅を題材にひと駅で読める短編を収録しています。この短いストーリーに意外なおチがあるのをそれを想像して読んでみては？気に入った作品が見つかった人は、次はその著者の作品に挑戦してみてください。
86	春との旅	小林政広	毎日新聞社	2010年	もしあなたに家族が一人しかいなくて、しかもその人が老齢で、あなた以外に頼る人がいないとしたら、あなたはその人の面倒を最後までみることができますか。この作品の主人公は、たった一人の肉親である祖父を、その兄弟たちの誰かに預けるために、祖父と二人で旅に出るのです。祖父には、兄弟の世話にはなりたくないという気持ちと、孫娘の希望を何とかして叶えさせてやりたいという心との葛藤があり、主人公には、東京で働きたいという願望と、祖父を見捨てるのは忍びがたいという心との葛藤があって、そういう双方の心の葛藤が私の心を激しく揺さぶりました。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
87	世界の非ネイティブエリートがやっている英語勉強方法	齋藤淳	KADOKAWA/ 中経出版	2014年	日本人の英語苦手意識を払しょくしてくれる1冊。この本で紹介されている勉強方法で英語を勉強すれば、楽しく、効率的に英語を勉強することができます。受験英語はもちろん、使える生きた英語の勉強方法として是非読んでもらいたい本です。英語の勉強に対する見方が変わるかもしれません。
88	読書力	齋藤孝	岩波書店(岩波新書)	2002年	この本を読まずして、「読書なんて意味ない」と言なかれ。「本を読むと、こんなにいいことが、こんなにいっぱいある」と、あなたは知ることになる。(知的な人間)でありたいと思う高校生必読の書。
89	この世でいちばん大事な「カネ」の話	西原理恵子	角川書店 (角川文庫)	2011年	お金で人一倍苦労してきた著者が、リアルな「カネ」の意味・価値・恐ろしさを、中高生相手に、直球で伝えた本です。高校生ともなれば、明日は社会人。その社会で、もつと人の生殺与奪を左右する存在が「金」であることは、まごうかたなき現実。そのことを、「この世はオカネがすべて」的な浅ましい拝金主義でもなく、「おカネなんか汚いもので、本当の価値ではない」的な浅薄きわまるキレイゴトでもなく、しかも体験に基づく説得力をもって語られた本は、意外とありそうで、なかったのです。見かけによらず、深く重い本。
90	平和のための名言集	早乙女勝元	大和書房	2012年	平和のための名言が365日分綴られています。1月1日から読んでも自分の誕生日から読んでもいいと思います。「平和の尊さ」を強く訴えかけてくる本です。
91	風に立つライオン	さだまさし	幻冬舎	2013年	人にものを頼まれると断れない性格で、何でも「オッケー、大丈夫」と言うタイプの外科医島田航一郎が、ケニアに赴き、そこで体験したアフリカの現実と彼の生き様が、彼を巡る人々の言葉で語られるという構成で書かれた小説です。そして後半は、航一郎から生きる目的と希望を受け継いだケニア人青年医師が、3・11震災後の石巻市でそのバトンを繋ぐ、時代と国境を越えた、壮大な命のリレー。読んだ後にきっと何か心に残り、だれかにその思いを話したくなることでしょう。
92	一瞬の風になれ	佐藤多佳子	講談社	2006年	ある高校の陸上競技部が舞台であるが、陸上関係者のみならず、スポーツに携わるすべての者にさわやかな感動を与える作品である。高校生らしい瑞々しい感性をぶつけあいながら、時には仲間として、時にはライバルとして成長していく姿には「スポーツっていいな」と素直に感じさせられるはずである。
93	100万回生きたねこ	佐野洋子	講談社	1977年	この本には、8年前歯医者で出会った。私の前では、先程から母親が「はらべこあむし」を子どもに読み聞かせていた。当時私は、仕事を精力的にこなしていたが、何かしっくりしていないと感じる時もあった。そんな私の心の中を、この猫の泣き顔が埋め尽くしたのである。早速帰りに購入し、深夜自室で何回も読んだ。そして合点がいった。この猫は、今の高校生にも、生きることを意味をつかむきっかけを示してくれると思う。
94	凍	沢木耕太郎	新潮社	2005年	登山家の山野井泰史・妙子夫妻の話。中国名百雪谷のルートもない中国ネパール国境のギャチュンカンに登頂するが、下降中に悪天候に遭遇し、雪崩、滑落、宙吊り、防寒具をなくしたり、高山病による視力低下・・・悪条件下の中でいかに生還するか。大自然の脅威・悪意、人の無力さ・希望・可能性、を感じながら手汗握る迫真のシーンが思い浮かぶ。山に行かない人でも高所登山の難しさと大自然の脅威、山野井夫妻の精神的なタフさと冷静さが実感できます。
95	星の王子さま	サン・テグジュペリ 著／内藤濯 訳	岩波書店	1953年	「星の王子さま」、タイトルだけなら聞いたことがあるかも知れませんが、1943年にフランス語で書かれたこの原著が、1953年に日本語訳で出版されてもう60年あまり。あれからいろいろな人が、この素敵なお話を日本語で紹介してくれました。より深いメッセージを伝えるために大人向けの表現へと変った訳、よりやさしく読んでもらうために子ども向けの表現へと変った訳、様々な訳が出版されました。ここで、原点にもどってみませんか？初めて日本人が「星の王子さま」に出会った時の本に、改めてこの本の良さに気付けるでしょう。新しい発見ができるでしょう。ほら、王子さまが待っていますよ。
		サン・テグジュペリ 著／河野万里子 訳	新潮社	1994年	砂漠に不時着したパイロットが出会った不思議な男の子。彼は愛するバラをふるさとの星に残し、星巡りの旅のち地球にやってきた、小さな王子さまでした。絵入りの(挿絵を描いているのも作者サン・テグジュペリです。)子供向きの本かという、かつてそうとは言切れません。王子さまはどのような存在か？バラとは何か？読み返せば読み返すほど、次々に疑問が湧いてきます。新訳でさらに読みやすくなったこの本を、ぜひ手にとってみてください。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
96	指輪物語	J. R. R. トールキン	評論社	1997年	ファンタジーと侮るなかれ。文庫本で9冊の大作ですが、読むうちに個性豊かなキャラクターに感情移入し、物語の舞台となる「中つ国」の世界に没頭してしまいます。物語の核となるのは、強大な力を持つ指輪。主人公のフロドはこれを封印する旅に出ます。この物語で考えさせられるのは、誰もが弱い存在だということ。完全無欠の聖人は、この物語には登場しません。皆さんもぜひ、フロドと一緒に冒険の旅に出てみてください。
97	科学101の未解決問題～まだ誰も答を知らない	ジェームス・トレフィル	講談社ブルーバックス	1991年	科学の各分野における最先端の研究状況の紹介、及び現在の課題等を見開き2ページにまとめて解説する。内容はきわめて興味深く、同時に分かり易い。
98	おおきな木	シェル・シルヴァスタイン 著／村上春樹 訳	あすなろ出版	2010年	子どものころ、大好きでしょっちゅう遊びに行った場所はありませんか？最近、その場所を訪れましたか？また、子どものころに遊んでくれた人と、今もお話することはありますか？もしかしら、そういった人や場所と、大きくなるにしたがって疎遠になっているかもしれませんね。この本を読むと、自分にもそんな場所があり、優しくしてくれた人がいたということを感じます。そして、もしかしら一番身近で自分を支え続けてくれている人の存在に気づくかもしれません。英語版原作(The Giving Tree)は高校生なら十分に読めます。日本語版を読んだら、ぜひ原文でもあじわってほしい名作です。
99	辺境の老騎士(1)	支援BIS	KADOKAWA	2014年	この小説はなんといっても料理の描写だけでなくそれを味わいつくす主人公がとてつもない。自分の置かれた状況に腐ることもなくこの際だからやりたいようにやってみるかという肝の据わり方が清々しい。これはひとえに主人公が58歳の年齢も経験も積んできたその上であえて年齢を理由に立ち止まることなく死出の旅路につく。だが、運命は主人公の人生を閉じるどころか無尽蔵に広げていく。愛に泣き、食に笑い、悪に怒り、主人公の後は人のつながりが、絆が増えていく。バルド・ローエンの大冒険譚開幕！
100	みんなのうた	重松清	角川書店	2013年	東大合格を目指し、3浪したものの夢叶わず、故郷にもどってきたレイコさんのお話です。故郷の人々とのふれあいの中で、レイコさんの自分探しの旅が、カラオケボックスを舞台に始まります。やはり、「うた」っていいですね。何がいいかは、この本を読んで見つけてください。
101	きみの友だち	重松清	新潮社	2005年	<p>タイトルからもわかるように、「友だち」がテーマになっている連作長編。恵美ちゃんという女の子と、その周辺の人々が各話で主人公になり、それぞれのエピソードをとおして、「友だち」って何なのかを考えさせます。この本を読み終えてまず感じたのは、「ああ、高校生の時にこの本を読んでいたら」でした。26歳の私がこの本と出会っても、今まで作り上げてきた「友だち」との関係は変えるのは難しい。でも高校生のあなたたちは、まさに今「ほんとうの友だち」に出会うチャンス。高校生の今だからこそ読んでほしい1冊です。</p> <p>ずっと一緒にいるのが「友だち」？ 一人ぼっちでいたくないから、いつも「みんな」の目を気にする？ 松葉杖を使う恵美と小さい頃から病気の由香は、急いでも「みんな」に追い抜かれてしまう。だから、二人でゆっくり歩く。でも、一緒にいなくても寂しくない「友だち」なんだって。それは、互いを「もこもこ雲」だと思っているからだよ。「みんな」からはじかれたり、こぼれ落ちたりしたことある？ 何をやっても思い通りにいかないことある？ たくさんうつむいてから顔を上げると、笑顔になるらしいよ。まあいいか、ゆっくり歩こう。そんな風に思えたらいいね。</p> <p>高校生のきみにとって、友だちってどういう存在なのでしょう。毎日メールをするのが友だち？ 何でも話せて、わかり合えるのが友だち？ 友だちと聞いて、誰の顔を思い浮かべた？ その友だちは、きみのことを思い浮かべてくれかたな。友だちって、難しいでしょう。急に傷つけられることもあるし、知らないうちに傷つけてしまうこともある。どうしたら上手くいくのか、きみは悩んでいるかもしれませんね。この本には、同じように悩んでいる「友だち」が登場します。その「友だち」は、きみにそと寄り添って励ましてくれるはずですよ。</p> <p>友だちとの関係が上手くいかなくて、悩んでいませんか。友だちの言動で傷ついたり、逆に傷つけたりした経験のある人もたくさんいるでしょう。クラスメイトと一緒にいて足が不自由になった恵美ちゃんと、病弱な由香ちゃんは教室で孤立しています。フンちゃんともたくんとの関係も微妙、そのほか何人かの子どもたちが、相手の気持ちが理解できず苦しんでいます。この本は、そんな子どもたちが成長していく過程を連作形式で描いています。最終章では、成長した子どもたちが過去を振り返り、心を通わせる場面は涙を誘います。友だちって、どういう存在なのかのわかる貴重な1冊です。</p>
102	青い鳥	重松清	新潮社	2007年	学校は楽しいですか。「もちろん。」と即答できる人には、この本はあまりふさわしくありませんね。お弁当を食べながらの友達とのおしゃべり、体育大会での声からしての応援、合唱コンクールの入賞発表後の涙など、素晴らしい青春の日々。ところが、それらが一転、教室に足を踏み入れることさえ、怖くなった経験はありませんか。そんな時でも「青い鳥」の主人公村内先生は、いつもあなたの味方です。どんなに忙しい時でも、真剣にあなたの相談に乗ってくれ、つかえながらも「本当に大切なこと」を必ず教えてください。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
103	竜馬がゆく	司馬遼太郎	文藝春秋	1998年	<p>高校生であるうちに是非読んでほしい一冊です。主人公は、土佐藩の下級武士であるご存じ坂本龍馬です。1853年のペリー来航をきっかけに無名の下級武士が、当時としては犯罪行為にあたる脱藩をします。そして、新しい日本を模索しながら奔走する姿は、今を生きる自分とこれからの自分のあり方を考えるきっかけをつくってくれます。どれほどの多くの若者が1963年の初版以来この本と出会い、そして勇気をもって社会へ飛び立っていったことでしょうか。かくいう私もその一人です。龍馬が混沌とした幕末の時代をいかに生きたかを知ることは幕末の時代背景を理解する機会にもなります。長編ですが、すべてを読み終えたときあなたの心にはきっと火がつけます。高校生のうちにぜひ読んでほしい1冊です。</p> <p>はじめて読んだのは大学生の時でしたが、8冊の文庫本を一気に読み終えた後、「高校生の時に読んでおけばよかった」と思ったものでした。それほど主人公の坂本龍馬の生き方に惹かれましたし、日本史の副読本として楽しく読むことができました。春休みを利用して高知県の桂浜まで一人で出かけたのも、青春時代の思い出になっています。高校生の皆さんにおすすめする作品です。</p> <p>高校卒業後の進路について迷ったときにこの本を読んでみました。坂本龍馬については教科書的な知識しかありませんでしたが、この本によって彼がどうして歴史に名を刻んだか理解できました。同時に今の自分はどうかという比較もできました。歴史上の人物と比較することは無理がありますが、この小説はそれを許してくれました。勇気を与えてくれました。叱咤激励してくれている気がしました。読書後、迷うこと無く進路を決めることができました。</p>
104	自分づくりの文章術	清水良典	筑摩書房	2003年	<p>あなたは辞書を使ったことはありますか？おそらく、ほとんどの人が使ったことがあると思います。では、自分で辞書を作ったことはあるでしょうか。ほとんどの人が作ったことがないでしょう。でも実はこの「自分辞書づくり」が文章を書くのにとても役立つのです。この本には、文章を書くときのヒントが他にもたくさん詰まっています。文章を書くことが苦手だと思っている人は、だまされたと思って、ぜひこの本を読んでみてください。文章を書くことは、自分をつくること。高校生の今、「自分づくり」を意識してみるのはいかがですか。</p>
105	幸せになる力	清水義彌	筑摩書房	2008年	<p>この本を手にとって読んでみようと思った人は、もしかしたら今自分は「幸せ」ではないと感じているのかもしれない。読んでみてもすぐに自分が受け入れられないかもしれない。それでも、この本を最後まで読んで、少しでも心が揺れたり、気づくことがあったら、それを過去の自分に、今の自分に、将来人の親になるであろう未来の自分に届けて欲しい。それは、今、大人になるべく不安や迷いと戦っているあなたたちの未来に必ず何かを与えてくれるでしょう。自分で見つけた言葉がいつかあなたたちの心の糧になることを願います。</p>
106	次郎物語	下村湖人	新潮社 ほか	1941年	<p>作者下村湖人の自伝的長編小説です。第一部から第五部まであり、里子に出された幼年期から成人するまでが描かれます。本書は環境と戦いながら自己を磨いていく内容で、主人公次郎の父親や兄、中学校(旧制)の先生など、次郎の自己形成に影響を与えた魅力的な人がたくさん登場します。五・一五事件、二・二六事件など戦争に向かう時代背景の中で、主人公たちの取る行動に注目です。</p>
107	ジョゼフ・フーシェ —ある政治の人間の肖像	シュテファン・ツヴァイク	岩波文庫	1979年	<p>ジョゼフ・フーシェは田舎町の物理教師でしたが、フランス革命に身を投じ、時に革命政府の幹部の一人、時にナポレオンの警察大臣、変節と裏切りをくりかえして激動の時代を生きます。高校生の時、フランス革命に興味をもって手にした本ですが、複雑で重厚な歴史的背景、善悪では割り切れない人間のたたかきにすっかり魅了されました。同じ作者の他の作品『マリー・アントワネット』『漫画『ペルサイユのばら』はこれを参考にしているとされます』や『メアリー・スチュワート』なども含め、何度読んでも飽きません。</p>
108	私の中のあなた	ジョディ・ピコー 著／川副智子 訳	早川書房(ハヤカワ文庫)	2009年	<p>13歳のアナは両親に対して訴訟を起こします。アナは白血病の姉の臓器提供者となるべく遺伝子を操作されたデザイナーズ・ベイビー。これまでも臍帯血、輸血、骨髄移植をしてきましたが、次は腎臓移植を望まれます。移植を拒めば姉の命を奪うかもしれない、腎臓を失うことで自分の人生を失うことになるかもしれない。これ以上手術を受けたくないと両親を訴えることにしたのです。生殖技術の在り方や家族の愛、人生について考えさせられます。映画化されましたが、原作は違う展開をします。両方味わうと、いろいろ考えさせられますよ。</p>
109	遠い朝の本たち	須賀敦子	筑摩書房	1998年	<p>これは、翻訳家である著者が子供時代から親しんでいた本の「交友」の記録です。なぜ人は本を読むのかという問いに、ひとつの答えを示してくれる最良の一冊。すでに本の世界に魅了されている人にも、なぜ本なんか読むんだろうと考えている人にも、ぜひこの優しい読書の記憶に触れて欲しい。読書をしたからといって、すぐに役立つことはまずないでしょう。けれど、すぐ役立つと思うのではなく、遠いつかの日になつたかしく優しい記憶になる本との付き合いを。そんな、気の長い読書をぜひみなさんにはして欲しいと思います。</p>
110	メディア・リテラシー —世界の現場から—	菅谷明子	岩波書店	2000年	<p>私達は、新聞やテレビなどの様々なメディアから情報を得ています。その情報は果たして「現実」を伝えたものでしょうか。この本を読むと、信憑性が高いと思われるニュースでさえも、メディア側の都合によって「構成されたもの」であることが分かります。そのため、情報を批判的に読み解くとともに、メディアを使って自分の意見を社会に発信する能力(メディア・リテラシー)は、現代社会を生きる上で不可欠な力といえるのではないのでしょうか。本書で紹介された、様々なメディア教育を体験することで、あなたも情報化社会でよりよく生きる力を手に入れてみませんか。</p>
111	オヤジの夜間高校バンザイ！ 二年後輩の娘を背にして読んだ「答辞」	杉尾好男	梓書院	2012年	<p>心の片隅にいつも自分の夢を持ち続け、いつか機会があればその夢を実現したいと思って、日々の仕事に打ち込んでいたある50代の方が、ついにその夢を実現したという話です。高校生のころ、やむなく中退して仕事をせざるを得なくなり、高校での学習、そして卒業がいつも自分の中にくすぶり続けていました。そしてついに夜間高校に行く決心をし、級友とともに励まし合い、助け合いながら、そして多くを学びながら卒業していく実話です。この話の中には、私たちが学ぶべき多くの事が書かれています。ぜひ読んでみてください。</p>

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
112	少年H	妹尾河童	講談社	1997年	時は戦前の昭和。「H」こと肇少年の日々は輝いていました。彼を取り巻く世界はとにかく「ゆたか」で、読みながら笑ったり、ほろりとしたり読み手も大忙し。H少年の少年時代は戦争とともに進みますが、あなたは様々な事実を知るおもしろさと、H少年とその周りの人物の強烈な魅力で知らぬ間にどンドン読み進めてしまうでしょう。手にとって最初の一言を読んだらあとは上下巻あつという間！一話完結、エッセイと小説の中間のような構成で、もししたらあなたにとってはじめての上下巻読破記念本になるかもしれません。
113	職業は武装解除	瀬谷ルミ子	朝日新聞出版	2011年	「肩書きも所属も関係なく、身一つで現場に放り込まれても、変化を生める人間になる(本文より)」 著者の瀬谷ルミ子さんは、日本で数少ないDDR[兵士の武装解除(Disarmament)、動員解除(Demobilization)、社会復帰(Reintegration)]の専門家として、ルワンダ、アフガニスタンなど世界の紛争地で活動され、2011年にはNewsweek日本版「世界が尊敬する日本人25人」にも選ばれました。きっかけは彼女が高校3年生の時に出会った1枚の写真。自らをあまり取り柄のない人間だったといい、それゆえに自身を最大限に生かす道を模索し続けたという彼女の生き方は、高校生の皆さんに、混沌とした社会を生きていく上で力強いヒントを与えてくれると思います。
114	わたしが芸術について語るなら	千住博	ポプラ社	2011年	美とは何か、芸術とは何かという、なんだか難しい話が始まる予感がしますよね。この本はそんな予感を裏切ってくれます。「きれい」と「美しい」の違いなど、筆者の明快な言葉による語りの数々によって、芸術のもつ力、本質がわかりやすく浮かび上がってきます。同時に、筆者の語りはバーチャルでつかみどころがない現代社会をときに悩みながら生きる君たちに、芸術という範疇をこえて勇気や希望を与えてくれることでしょう。
115	ヒツジで終わる習慣、ライオンに変わる決断	千田琢哉	実務教育出版	2011年	皆さんは、夏休みが終わろうとする頃、「こんなはずじゃなかったの」とか、「もっと計画的にすればよかった」と、勉強(宿題)や部活動(遊び)に至るまで、目標をなかなか達成できずに後悔したことはありませんでしたか? そんな、『なぜ自分だけ』と悩んでいる人におすすめの一冊です。 人を、群れ社会で生活するヒツジと、孤独に狩りをして生活する百獣の王ライオンにたとえ、どんな生き方が自分に合っているのか、自分を高めるためには何をすると変わるのかを、見開き2ページで簡潔に語りかけています。あなたなら、どうしますか?
116	オイディプス王	ソポクレス	岩波書店	1967年	日本では縄文時代末だった頃に、古代ギリシアで書かれた戯曲の代表作です。父を殺して母と関係をもってしまうという、現代ミステリーよりも衝撃的な内容で劇的に話が展開するが、人の運命・宿命とはを深く考えさせられる作品です。テーマは暗くて重い作品ですが、ギリシア悲劇の最高作品です。文庫本でも100ページちょっとの本、こんな古典中の古典にも触れてみてください。
117	超高層ビルの“なぜ”を科学する	大成建設「超高層ビル」研究プロジェクトチーム	アーク出版	2009年	何気なしに見上げる超高層ビル。そこには工夫がいっぱい。難題をひとつずつ解決して建っている。工業高校生なら必読。
118	平安文学でわかる恋の法則	高木和子	筑摩書房	2013年	この本は、動詞や助動詞の意味や活用、耳慣れない古文単語の意味を覚えることに辟易し、どうして古文を勉強しなければならぬのかとお悩みのあなたにとって、またとない「古典への道案内」となります。特に、本書は「ストーリー展開やものの考え方のパターン」に着目して書かれているので、読者は、古典から現代に通じる恋や人生の普遍的な発想の形式を理解しながら古典文学の世界を堪能することができます。本書を通して、古文の面白さを感じつつ、古文学習へのやる気もいやが上にも高まっていくことは請け合いです。
119	ビルマの竖琴	竹山道雄	中央公論社	1949年	平和の希求をテーマにした作品の中で、昭和に生きた私たちの定番がこれ。ビルマ(現ミャンマー)を舞台にした、ドラマチックでスリリングな一大メルヘンです。「おーい、水鳥。一緒に日本にかえろう!」、「ああ、やっぱり自分は帰るわけにはいかない」。青いインコのつぶやきは、きつと心から離れません。歴史に学ぶにしても、学び方次第。南洋や大陸には、今も遺骨が眠っています。私たちが彼らの無念さに心いたらなければ、死んでも死にきれないと思います。戦後70年を迎えるにあたり、謙虚にあの時代を検証する必要があるそうです。
120	女生徒	太宰治	角川書店	1954年	太宰治が女生徒になりきって、とある一日を瑞々しく、かわいらしく綴った短編小説です。甘やかな空想や感情が続いたと思えば、ときに、びっくりするような辛辣なことを考えたり、あるときは真剣に将来について考えたりする少女の揺れる心情描写が実にリアルです。時代設定は昭和初期だけれど、現代の中学生にも通ずる感覚が満載で、実在する少女の心の中を覗き見たようなときどき感が味わえます。読むときの自分の年齢や状況によって感じ方が変わる面白い作品です。青春真っ只中の今こそ一度読んでみることをおすすめします。
121	文車日記 私の古典散歩	田辺聖子	新潮文庫	1978年	最近古典の授業をしていて強く感じることは、今まで古典の作品に触れる機会が少なかったせいか、皆さんがその本当のおもしろさを知らないと言うことです。皆さんの読書傾向を見ると、やはりミステリーやファンタジーまたはライトノベルなどを読んでいる人が多いような気がします。ミステリーやファンタジーをどきどきワクワクしながら読むのと同じように、胸を躍らせることのできる世界が古典の中にも広がっているのに、もったいないことです。この「文車日記」は古代から近世に至るさまざまな日本の古典の内容をわかりやすくエッセイ風に紹介してくれています。筆者の古典の世界への造詣の深さを感じさせる魅力的な文章です。この本をきっかけに皆さんが古典の世界に足を踏み入れ、現代の私たちにも共感できる、いにしえ人のさまざまな思いに触れ、言葉の豊かさ、美しさを味わってくださることを願っています。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
122	アルジャーノンに花束を	ダニエル・キイス	早川書房(早川文庫)	1991年	知的障害者の青年、チャーリーが脳手術を受け、IQが飛躍的に向上していき、今まで見えなかったものが見えるようになりました。しかし、見えてきたことにより、自分への偏見、いじめを知ることになります。手術を受ける前には無かった孤独感を味わい、苦悩の日々を送ることになってしまいます。「幸せとは何か」を考えさせられる物語です。
123	国家はなぜ衰退するのか(上) (下) 権力・繁栄・貧困の起源	ダロン・アセモグル、ジェイムズ・A・ロビンソン 著 鬼澤忍 訳	早川書房	2013年	結構な分量ですが、一気に読めます。北米と南米、または韓国と北朝鮮ではどうして豊かさに現在のような差があるのか、などを解き明かします。世界にはなぜ豊かな地域と貧しい地域が存在するのかを、地理でも、気候でも、文化でも、為政者の無知のせいでもないかと説きます。今後の日本は繁栄へ向かうのか衰退へ向うのか、また、現在の中国はこのまま経済成長を続けてアメリカを圧倒するのか、といった未来もこの本を読んだ後なら自分なりに予想ができます。現在起きている政治経済上の問題にも今までは違ったアンテナの引っ掛かり方をするとします。ぜひ。
124	サラダ記念日	俄万智	河出書房新社	1987年	「俳句とか短歌って、よくわかんない」なんてことをよく聞きます。「何だか形式があって、旧仮名遣いの読み方や使い方がわからないし」私もそう思っていました。この本に出会うまでは。「この味がいいね」と君が言ったから8月7日はサラダ記念日。1987年、この歌を収めた「サラダ記念日」は、短歌部門において史上初のベストセラー、作者俄万智さんは一躍時の人となりました。何より短歌がとて身近なものになりました。みなさんも口ずさんでみませんか？五七五七七を。
125	キング牧師—人種の平等と人間愛を求めて—	辻内鏡人／中條 献	岩波書店	1993年	インドのガンジー氏、南アフリカのマンデラ大統領、アメリカのキング牧師、みんな差別と闘った人達です。それも、非暴力の思想を掲げて。暴力を暴力で根絶することはできない。でも、暴力を振るわれたら、返したくなるのも人の心。倍返し、そんな言葉もやりました。黒人たちは、それまでの酷い仕打ちに怒っていました。その怒りの総量はどれほど大きかったことか。キング牧師自身、脅迫を受け、家族が危険にさらされたこともありました。それでも彼は非暴力を説いてまわりました。真に心の強い人がなせること。非暴力主義。学んでみませんか。
126	島はぼくらと	辻村深月	講談社	2013年	あなたは今、どのような学校生活を送っていますか？ 学校までどのように通い、どのように友達や家族と関わり、どのような未来を思い描いていますか？ 『島はぼくらと』は、ある島に住む4人の高校生の姿を描いた作品です。4人の主人公たちは、毎日フェリーで学校へと通い、お互いを思いやりながら他者と関わり、これからの進路に悩みつつ成長していきます。個性豊かな主人公の揺れ動く感情に触れ、登場人物の誰かのなかにあなた自身を発見するかもしれません。ぜひ、登場人物の気持ちに寄り添って、読み進めてみてください。
127	ツナグ	辻村深月	新潮社	2010年	私も生徒にすすめられて読みました！ 亡くなってしまった大切な人。一度だけ逢えたとしたらあなたは誰に逢いますか？ 死者と生者をつなぐ使者<ツナグ>。たった一度だけ亡くなった人と満月の夜に逢うことができる。もう一度会ってお礼を言いたい…。亡くなった母に聞きたいことがある…。 現実、失ってしまったからでは思いは伝わらない、後悔しない人生を送ってほしい。今、自分を支えてくれている人、大切な人を見つめなおしたくなる一冊です。 私の父は、昨年突然なくなりました。その日は、父の誕生日でした。家族で楽しくお祝いをしていたら、突然父が倒れたのです。そんなことがあってからこの本に出会いました。 死者との再会をテーマにかかれた本でした。この本を読み終えた私は、もう一度大好きだった父に会いたいと思いました。本当に、どこかに死者との再会をかなえてくれる人がいるんじゃないか、と思っただけです。 私は、心に染み入る感動の一冊だと思い、みなさんにおすすめします。
128	学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話	坪田信貴	KADOKAWA	2013年	みなさんは色々なことから無理だと決めて逃げていませんか？今から紹介する本は、無理なことを乗り越える方法が載っています。その本は題名の通り「学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話」が載っています。作者は塾の講師で塾に来たギャル・さやかちゃんの素質を見抜きます。そして、彼女をやる気にさせるため、ありとあらゆる方法を尽くします。また、やる気になった彼女の影響によって周囲の人々までも変わっていきます。如何にして無理と思っていたことを乗り越えるか。その答えはこの本にあります。
129	綾瀬はるか「戦争」を聞く	TBSテレビ「NEWS23」取材班編	岩波書店	2013年	私は長崎県出身です。長崎の小中高校では平和教育が常で、原爆被爆や戦争の実相について受け継がれ、平和について学びます。そこで、私は「綾瀬はるか「戦争」を聞く」をすすめることにしました。この本は、TBSテレビ「NEWS23クロス」シリーズを書籍化したものです。広島県出身の女優、綾瀬はるかさんが、広島、長崎の原爆投下の被害者や沖縄戦の関係者などを訪ねます。たくさんの写真やインタビュー形式でわかりやすく書かれています。今もお苦しみを続けている被爆者がいる…原爆、戦争は終わってはいない。現代の問題、私たちの問題なのです。ほんとうの平和とは何であるかを考え、人間的な生き方を考えてほしい。この本は戦争や平和に関する良書の一つだと思い、愛知県の高校生のみなさんにもおすすめします。
130	きみと歩けば・・・	出口すみ子	水王舎	2014年	ハッピーウオーカーをしている出口家のどこにもあるようなライフワークを中心に書かれた、おかしくて泣ける感動の物語です。出口家では、盲導犬候補の子犬を生後50日から約1年間、家族の一員として飼育するボランティアをしています。元気で暴れん坊でいたずら好きの黒いラブラドル・レトリバーのロンドとイエローラブのアテネを悪戦苦闘しながら育てていく奮闘の毎日と、犬だけでなく家族がともに成長し、絆を深めていく姿を描いた、心温まる一冊です。是非、一度読んでみてください。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
131	新編 原爆詩集	峠三吉	青木書店	1995年	集団的自衛権が閣議決定され、賛否両論の中で、戦争につながるのではないかと、不安の声が挙がっている。戦後69年経ち、戦争の恐ろしさを実際に知る世代が、少なくなっている現在、この詩集は、戦争での大きな惨禍としての原爆の真実や実際が鮮明に綴られている。広島で被爆し、反原爆・人間の尊厳を訴えて、平和活動を展開し、36歳で早世された峠三吉氏の心からの叫びが聞こえてくる。序の文「ちをかえせ ははをかえせ…」は、広島平和記念公園内の石碑にも刻まれている。今こそ、想像力を働かせ、一言一言をかみしめてほしい。
132	ミツバチの会議	トーマス・D・シ ーラー	築地書館	2013年	ミツバチは春から夏の巣別れの時期、果敢なハタラクバチたちが周辺の偵察飛行をし、最適な巣作りの場所の候補を見つけたハタラクバチたちが会議を開き、群れの今後の安全のために最良の選択を全員一致で決めています。まずは偵察バチが安全な引越場所を探し、定足数に達すると引越しを開始します。それまで反対意見のものも決定には従い、群れの生存のためには労をいとみません。人間は利害関係が対立的ですが、議論をした後には一糸乱れぬ行動をとるハチに学ぶところが多いのではないのでしょうか。いろいろと考えさせられます。
133	罪と罰	ドストエフスキー 著／亀山郁夫 訳	光文社文庫	2008年	長編小説は楽しい。なぜなら長いから。世の中では大人も子供も、退屈でたまらないらしい。そうでなければ、時間のスキマをケイタイの操作でせせと埋める姿はないはずだ。そんなに退屈なら、いっそのこと長編小説の長さそのものにひたってしまおう。小説は退屈だって？日常の退屈を、巨大な退屈で追い払おうという作戦だ。では何を？そもそも小説は近代欧州の産物。だから、その全盛期・19世紀欧州の長編小説なら間違いない。例えば、ドストエフスキー『罪と罰』をどうぞ。それも亀山郁夫訳(光文社文庫)でじっくりと味わいたい。読後、きみの人生観はもうもとはもどれない。
134	最後の女学生～わたしたちの昭和～	豊橋市立高等 女学校四五会	豊橋市立高等 女学校四五会	1994年	平和慣れしてしまった私たち。こんな時だからこそ、今一度平和について考えてみましょう。みなさんと同じ高校生が戦中どういった高校時代を過ごしたのか。どんなことを考えていたのか。愛知県の東三河の方々との戦争体験なので、きっと身近に感じられることでしょう。実際に戦争を体験した方々が少なくなっています。生の声を聞くことができることも少なくなっています。この本をきっかけにして、みなさんのおじいさん、おばあさんの戦争体験を聞いてみましょう。
135	シーラという子 虐待されたある少女の物語	トリイ・L・ヘイ デン	早川書房	1996年	著者のトリイ・ヘイデンさんは、福祉施設で働いた経験をもとに執筆活動をしています。トリイが出会った時のシーラは6歳で、近所の子供を木に縛り付けて火をつけるという衝撃的な事件を起こします。けれども、シーラの問題行動は、虐待やネグレクトといった悲惨な家庭状況に起因するものだとわかってきます。やがて、トリイの無限の愛情によって、シーラの心は大きな変化を遂げていきます。私はシーラを取り巻く悲惨な環境に心を痛めるとともに、トリイがシーラに注ぐ無限の愛情に感銘を受けました。
136	銀の匙	中勘助	岩波書店	1935年	これは、著者の中勘助が自らの子ども時代を振り返り、その情景を豊かな表現で綴った作品です。ちなみに、彼は明治18年生まれ。「えー、そんな昔の人の話？なんだか難しそう。」なんて思わないでください。生きる時代や出てくる食べ物は今と違って、ヒーローごっこにいつまでも大人を付き合わせたり、近所のお兄ちゃんたちが怖くてぐずったりと、誰にでも思い当たりそうな小さなエピソードがたくさん詰まっています。そして、私がこの作品に出会い、共感したのは、あなたたちと同じ高校生のときです。幼い頃の記憶を呼び起こしてみませんか。
137	孤独について 一生きるのが困難な人々へ	中島義道	文藝春秋	1998年	「孤独について」の筆者、中島義道さんは東京大学・大学院卒業後、ウィーン大学に留学、現在電気通信大学の哲学科教授です。家柄もよく、傍目には全くの幸せな人に見える。が、そんな彼も相当複雑な家庭環境を生きました。たとえば目次を見ると「ずっと孤独だった」「孤独な少年時代、人間恐怖症」「孤独な青年時代、ふたたび留年する」などなど。副題にもなっている、「生きるのが困難な人々へ」とあるように、今悩みを抱えている人、是非読んでみて下さい。変わった性格の筆者だが、その生き方・苦しみと共に共感する読者も多いはずですよ。
138	きみはいい子	中脇初枝	ポプラ社	2012年	それだけで、前を向いて歩けるようになることもあります。クラスをまとめられない新人教師、家に居ることが出来ない小学生、子どもをたたかすにはいられない母親、過去の思い出と共に一人で生きる老婦人…。この物語には、様々なせつない事情や思いを抱えた人物が登場します。彼らが涙し、そして笑顔になれたことは何だったのでしょうか？いつもイライラしている自分がいた時、また辛そうにしている人に気づいた時に読んで欲しい作品です。きっとやさしい気持ちになれるでしょう。
139	ダイヤモンドダスト	南木佳士	文春文庫	1992年	忙しい高校生のみなさんは本を読む暇などない、と思っているかもしれません。でも皆さんは授業や受験勉強の中で多くの活字に触れています。この本は私が高校時代、センター模試の問題文の中で出会った本です。もちろん問題文は一部の抜粋でした。でも気になって、受験が終わったら読みたいと思って題名を書き留めておいたのです。自分にとってお勧めの本は自分にしか分かりません。どんな時でも、読んでみたい、と思ったらその気持ちを大切にそして実行してください。そうして手に入れた本は、きっとあなたの生涯の宝物になるはずですよ。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
140	西の魔女が死んだ	梨木香歩	新潮社	2001年	あなたは、自分の思いを言葉にして伝えることができているですか。そして、それを静かに受け止めてくれる大人が身近にいますか。あなたが不安なときに相談することができる大人が近くにいられるですか。もし、不安なままのあなただったら、この本はぴったりです。子どもは受け止めてもらって成長します。西の魔女の魔女修行を受けて、どうぞ自分を上手に作り上げてください。そうすれば、あなたも「アイノウ」と、静かに子どもの話を聞くことのできる素敵な大人になることでしょう。
			小学館	1996年	学校、友達、家族。なんとなく、何か違うと思いがち、無理をして、心が固くなってしまったあなた。この本を読んで「まい」といっしょに魔女の手ほどきを受けましょう。きっと心がほぐれて新しい世界が開けるでしょう。
141	神様のカルテ	夏川草介	小学館	2009年	「一に止まる」と書いて「一止(いちと)」。主人公の名前です。少し変わった名前だと思った人は、ぜひ一度紙に書いてみてください。意味がわかりますよ。彼は、「私は悲しむのが苦手だ・・・」と言いつつ、自分の進むべき道を悩みながら、毎日人の命と向き合って働いています。映画化された作品なので、知っている人も多いかもしれませんが、この本を読むと、主人公の目には見えない優しさや、周りの人々のさりげない温かさを、もっとたくさん感じる事がきっとできるはずです。
142	こころ	夏目漱石	新潮社	1952年	文豪夏目漱石の後期3部作最後の作品です。登場人物は少なく、話の展開がはやく、どんどん引き込まれていきます。主人公の「私」は、鎌倉の海水浴で「先生」と出会う。先生は人を近づけず、自ら「私は淋しい人間です」というのですが、私はその先生に心惹かれる。そんな先生には、秘密がありました。毎月友人「K」の墓参りを欠かしてませんが、そのことについて多くを語りません。先生の抱える苦しみ、その秘密が、最後に明らかになります。「先生」「私」などの「こころ」を追っていくと人間のエゴ、孤独、生きることの意味など多くを考えさせられる作品です。
					自分がひそかに愛する女性を、自分の無二の親友も恋していると思ったら、あなたはどうしますか？ 自分の利益にしがみついた結果、取り返しのつかない過ちを犯してしまったら、あなたはどうか償いますか？ 恋愛と友情、裏切りと孤独、生きる苦悩を余すところなく伝える、永遠の名作です。明治時代の青年たちの生き方に、現代の高校生もきっと深く共感するところがあるはず。さあ、あなたも不滅の「漱石」ワールドへ！
					『こころ』が「朝日新聞連載100周年」なのをきっかけに、久々に読んでみました。教科書にも作品の一部分がよく掲載されるので、読んだことのある人もいるでしょう。しかし、教科書には作品全体が載っていません。『こころ』は、題名のごとく、登場人物の心理描写を実に見事に表現しています。読むたびに、「ああではないか、こうではないか」と推測され、想像が膨らみます。読書とおして、様々な人物の立場から考えてみることは、自らの人生の糧になります。繰り返し読むほどに味わい深い作品です。高校生のうちに、ぜひ読んでみましょう！
143	ドラゴン桜公式副読本 16歳の教科書～なぜ学び、なにを学ぶのか～	7人の特別講義プロジェクト・モーニング編集部 著・編	講談社	2007年	将来に対して不安を抱えている人が多いと思います。自分たちが学ぶ理由、学んでいるものの正体、そして、自分はいったいどんな大人になるのか。それらについて考えるヒントになると 생각합니다。
144	新美南吉童話集	新美南吉	岩波書店	2000年	『新美南吉童話集』の中の特に「牛をつないだ樺の木」はおすすめです。井戸がなくて不便だと思っても、自分から井戸を掘りに立ち上がろうとしない人々に対し、一人立ち上がった海蔵のお話です。海蔵は、井戸を作る決心をしますが、地主が掘らせてくれません。最後は、海蔵のよい心に触れた地主が、井戸を掘ることを許してくれます。この作品は、南吉の代表作で、自分の死を覚悟してから書いたものです。「わしは、もう思い残すことはないがや、こんな小さな仕事だが、人のためになることを残すことができたからの才」という海蔵の言葉には、南吉の思いが込められています。この他『新美南吉童話集』には13編の童話が収録されています。
145	でんでんむしのかなしみ	新美南吉	羽田書店	1950年	新美南吉は愛知県出身の日本の児童文学の代表的な作家であり、「でんでんむしのかなしみ」は第26回IBBYニューデリー大会で皇后陛下が基調講演の中で紹介された作品である。大人の城に近づこうとしている高校生にとって、「人生の悲しみ、孤独」をかみしめることができる作品だと考える。
146	自閉っ子、こういう風にてきてます！	ニキ・リンコ、藤家寛子	花風社	2004年	自閉症って言葉聞いたことありますか？相手の立場や気持ちを察することが苦手だったり、耳から入る音から聞きたい音だけ選んで聞けなかったりなど、生まれつきの特性で、多くの場面で困っていても伝えきれず悩んできた方の生の声を面白く楽しく紹介しています。みんないろいろな感性、考え方を持っています。いろいろな価値観・世界観を広げるのに良い本だと思います。
147	「世界を変えた100日」写真がとらえた歴史の瞬間	ニック・ヤップ 著／村田綾子 訳	日経ナショナル・ジオグラフィック社	2008年	未来を担う皆さんは、世界の動きに興味をもち理解することが必要です。そのためには、近現代史の内容から知ることが望ましいと思います。この本は世界史の出来事で特に重要な100日を選び、その瞬間的な場面を、プロのカメラマンによる写真とともに詳しい解説を付けています。歴史が得意な人は言うまでもなく、不得意な人もぜひ一度、手にとり、まず1枚ずつ大きな写真から眺めて下さい。必ず、新たな発見があり、疑問が出ると思います。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
148	きけ わだつみのこえ	日本戦没者学生記念会 編	岩波文庫	1995年	確実に死が待ち受ける特攻隊の命令を受けた若者達は、出撃するまでの残されたわずかな時間に何を考え、どのような行動をとったのか。史実としての彼らの遺書、手記に向かう時、私達は生きることの意味を痛切に感ぜざるを得ない。この本は、他のどの戦争文学より、生身の戦争を教えてくれる。
149	高校生の夢 47都道府県47人の高校生の夢	日本ドリームプロジェクト 編	いろは出版	2007年	「夢をみたらダメですか？」高校生のあなたたちは大人と子どもの境目で葛藤しています。特に自分の夢のことになると、多くの高校生が夢が無いと答える時代になってしまいました。この本はそんな「夢なんて……」と思っているあなたにこそ読んでほしい！「夢をみる」ことはカッコ悪いことではないんだよ。同じ年の全国の仲間たちはこんな夢を持っているんだ。さああなたも夢をみよう！
150	最後までとわかっていたら	ノーマ コーネット マレック	サンクチュアリ出版	2007年	短文の詩に美しい写真が添えられている本です。東日本大震災の時、皆さんは何を思いましたか？ 今生きていることが奇跡だと感じた人もいるのではないのでしょうか？ 生きる目的や幸せについて考えさせられたり、価値観が変わったりした人もいないのでしょうか？ 私たちの住む場所にいつ大地震が来るかもわからないし、福島原発問題も未解決のままです。私たちがこれから先も今日と同じように明日を迎えられるとは限らないのです。この本は、目の前にある「本当に大切なもの」に気づかせてくれ、皆さんの心をきと癒やしてくれることと思います。
151	新潮日本古典集成『竹取物語』	野口元大 校注	新潮社	1979年	『竹取物語』を、単なる「おとぎ話」と思っていませんか。実はそうではないのです。この物語は、世界最古のSFであると同時に、現代の日本人にとっては必読の書なのです。この物語は、かぐや姫の成長の様子を軸として、彼女が人間の心を獲得する様子と、月の都の人々によって、その心が略奪される様子が描かれた物語なのです。超科学文明を有した月の都の人々の生活は、現代人の理想かもしれませんが。しかし彼らの「冷酷な態度」は、はたして模範とすべきでしょうか。そんなことを教えてくれる作品が、この『竹取物語』なのです。
152	兎の眼	灰谷健次郎	理論社	1974年	小学校に勤める新任女性教師の小谷先生と「問題児」の鉄三の心が通い合う瞬間に感動する本です。鉄三は、話す力も書く力もゆくり育っている子どもでした。ワクワクしながら読んだことを思い出します。テレビが登場して50年が経ち、時代はパソコン・スマホなど、あなた方を夢中にさせるツールがあふれています。読書となると苦痛という人も少なくないと思います。「兎の眼」はとて読みやすい小説です。ときには手にするスマホを小説に持ちかえて、アナログの世界で感動体験を試みたらどうですか。
153	アルケミストー夢を旅した少年	パウロ・コエリョ 著／山川繻矢、山川亜希子 訳	角川文庫	1997年	昔はみんな夢を持っていました。現実不可能な夢でも、目をキラキラさせながら、一杯「ウルトラマンになりたい。」という子供がなんと多かったことか。でも今は、情報が氾濫し、情報という名の『現実』が『夢』を持つことの邪魔をします。そんな高校生に、是非とも読んでほしい。何かを望むという純粋な思いと、行動が自分の世界を変えていく、そんな体験を是非してほしい。「おまえが何かを望むときには、宇宙全体が協力して、それを実現するために助けてくれるのだよ。」
154	しゃばけ	富中恵	新潮文庫	2004年	本書は、2001年度の第13回日本ファンタジーノベル大賞の優秀賞を受賞した文庫版です。舞台は江戸時代の中心、将軍のお膝元である花のお江戸。主人公は、有数の豪商、廻船問屋・長崎屋の一人息子。一太郎です。17歳という若さにかかわらず、非常に体が弱く、両親から将来を心配されている一太郎ですが、薬種問屋を一軒まかされています。ある晩、一人出かけることもあまりないのに、たまたま出かけた時に一太郎は殺人事件に行き当たってしまいます。しかし、一太郎の危機を知らせてくれるのがなんと妖怪なのです。時代劇の風流や人情だけでなく、妖怪が登場し、幻想的な内容です。殺人事件の謎解きを一太郎と妖怪と一緒にしてみたいかでしょうか。
155	ごん狐はなぜ撃ち殺されたのかー新美南吉の小さな世界ー	畑中章宏	晶文社	2013年	新美南吉の代表作「ごん狐」は、50年以上にわたって国語の教科書に採用されています。ですが、新美南吉のそれ以外の童話を知っていますか？大人になってから、「ごん狐」を再び読み返したことはありますか？子どものころは漠然としか理解できなかった部分が、大人になって読み返すと、南吉が童話を通して何を伝えたかったのか語りかけられます。本書は、新美南吉の人生、生き方、考え方から生まれたたくさんの童話を、様々な観点から解説してくれる一冊。南吉が童話を通して語りかける部分は、人間の人間らしい思想への問いかけが多く、とても心に残ります。この本を読んで、あなたも新美南吉の世界を覗いてみませんか？
156	もらとりあむタマ子	波多野都	エムオンエンタテイメント	2013年	同名映画の脚本を小説化した作品。「モロトリアム」。知的・肉体的には一人前に達しながら、社会人としての義務と責任の遂行を「猶予されている期間」、また、そういう心理状態に留まっている期間。東京の大学を卒業後、就職せず実家のある甲府に戻ったタマ子。実家でだらだらと過ごす日々。しかし、その無力な日々の中で少しずつタマ子の気持ちに変化が…。タマ子と父との掛け合いを中心に、誰もが大人に近づくと感じるであろう、微妙な心の移り変わりを感じられる作品です。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
157	国銅	帯木蓮生	新潮文庫	2006年	一説によれば、奈良の大仏作りは、現代ならロケット打ち上げほどの国家的大事業だったとか。『国銅』は、その大仏作りに携わることになった一人の青年の物語です。青年は当時としては普通ではない人生を送ることになるわけですが、もちろん、彼の名が歴史に残ることはありません。しかし、たとえ名を成さずとも、与えられた自分の人生を深く生きることの大切さが、青年や周囲の人々の姿からしみじみと伝わってくるのです。 ラストシーンで彼が選んだ生き方は、同じように歴史に名の残ることのない私たちにも通じるものだと思います。それは山中に咲く椿の花のように美しいものなのです。
158	ジュエルニーの食卓	原田マハ	集英社	2013年	「美しい墓」「エトワール」「タンギー爺さん」「ジュエルニーの食卓」の4話で構成される本書は、膨大な資料をもとに書かれたフィクションです。印象派の画家、アンリ・マティスやドガ、モネらの美しさを追い求めるがゆえのエピソードの数々。彼らに関わった実在の人々が語る形で浮かび上がる人物像と、芸術にかける情熱と魂。清らかな夢を見てきたような酔いのため息の後、あなたは必ず大きな画集を手に取りたくります。芸術に興味がなくとも何の心配もありません。ころおどる小説としてあなたを出迎えてくれるでしょう。 この本はまさに「読む美術館」です。マティス、ドガ、ピカソ、ゴッホ、セザンヌ、モネ。彼らは辛く暗い時代を生きながらも、「光」あふれる絵を描きました。見る人に感銘・感動を与える絵です。「光」あふれる絵を描くために、人生のすべてをかけた者たち。その闘いが描かれている物語です。私たちに情熱を持って何か打ち込むことの素晴らしさを教えてください。ぜひ読んでみてください。
159	麒麟の翼	東野圭吾	講談社	2011年	嘘は、バレなければいいのでしょうか。誰もが嘘をついたことはあるでしょう。そして、一度嘘をついてしまうと、時にはその嘘をカバーするために、また、嘘をつかなければならなくなります。そして、また、さらなる嘘について…悪循環に陥ってしまいます。本当の自分がわからなくなってしまった時、不安で淋しい自分のことを考えてくれるのは、誰なのでしょう。一緒に悩んで、間違いを正してくれるのは、誰なのでしょう。泥沼に陥る一歩前で、寄り添い支えてくれる人の大切さと、誠実さこそ安心の原点であることを教えられた本でした。
160	虚ろな十字架	東野圭吾	光文社	2014年	ベツト葬祭を営む中原の元に、別れた妻小夜子の死が伝えられた。路上で刺されて殺されたというのだ。何故、誰に…。もし離婚していなかったら、私はまた遺族になるところだった」とつぶや。中原には、11年前娘を殺されたという過去があった。二度と帰らぬ大切な人を想い、事件の真相を探るうち、改めて死刑について考える。あなたなら答えを見つかることができるか。
161	魔球	東野圭吾	講談社(文庫)	1991年	「探偵ガリレオ」シリーズや「白夜行」などで、今やすっかり人気作家となった、東野圭吾の初期の名作です。読み始めたら一気に引き込まれて最後まで読んでしまうので、大事な試験前などには読まない方が良いでしょう。超一級のミステリーですが、同時に文学作品としても楽しめると思います。この本の詳細はあえて言いません。ぜひ一度手に取ってみてください。
162	緒方貞子 難民支援の現場から	東野真	集英社新書	2003年	みなさんは自分の人生をどのように生きていこうと考えていますか。緒方貞子さんは63歳で国連難民高等弁務官に就任しました。この本には世界の武力紛争解決や難民支援に対する緒方さんの情熱が溢れています。その人柄と献身的な仕事ぶりから私たちは生きることの大切な意味を学べるはずです。
163	ホンモノの文章力——自分を売り込む技術	樋口裕一	集英社	2000年	文章を書く機会が増えています。文章というと、大学入試の小論文や志望理由書、読書感想文や作文などを思い浮かべると思います。しかし今日ではメールやSNSでの投稿などでも文章を書いています。社会に出てからも、企画書やレポートなど、文章は社会生活を送る上で書かないことはありません。そして文章を書くことを「嫌い」「苦手」と思っている人は多いでしょう。これを読めばそんな意識もなくなり、見事に自己演出ができるようになります。
164	動的平衡	福岡伸一	木楽舎	2009年	みんなの苦手な生物が中心の内容です。でも大丈夫！苦手な君でも知っている言葉で書いてあります。たとえばミトコンドリア、これって実は、元々は細胞の外にあって、途中からめり込んできたんですよ。こんなような意外な事実がたくさん書かれています。これを読むと、なんだか生物が分かってくる感じがする！そんな本ですよ。
165	心に響く小さな5つの物語	藤尾秀昭	致知出版	2010年	いずれも少年少女が主人公になっている短編の実話です。いろんな事情を抱えつつも、与えられた場所、時間、環境を生かし、どのように目の前の課題を切り開いていけばよいのでしょうか。一つひとつの物語に大きな感動と学びがあります。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
166	若き数学者のアメリカ	藤原正彦	新潮社	1981年	推薦文を書くために20年以上前に読んだこの本を書棚から引っ張り出してきました。一気に読みました。「おもしろい！」最初に読んだときと同じ感想を持ちました。ストーリーはほとんど覚えていましたが、それでも引き込まれました。決して小難しい数学の本ではありません。1972年名門シカゴ大学に研究員として招かれた著者が、人種・言葉・文化の壁を乗り越えてアメリカに溶け込んでいく様子は、読んでいて思わず拍手を送りたくります。この本を読み終えたあなたは、自分の知らない未知の世界へ飛び込んで行きたいと思うことでしょう。
167	変身	フランツ・カフカ	新潮社	1962年	グレーゴルという男が、ある朝目覚めたら虫になっていた、という話。グレーゴルは辛い仕事も厭わず、一家の大黒柱として働く勤勉な男であった。彼の身に何が起こったのか、なぜ彼は「変身」してしまったのか考えさせられる。またここでは、虫になってしまった彼の家族の変身ぶりも描かれ、それが極めて現代的であることにも驚かされる。自由と束縛、労働、家族というものについて考えさせられる、現代にも通じる寓話的物語。短編ながら奥が深いので、是非一読を薦めたい。
168	ムーン・パレス	ポール・オースター	新潮社	1997年	無類のストーリー・テラー、ポール・オースターが描くどきどきの青春小説です。大人になる前にぜひ読んでほしい一冊です。
169	ひとにぎりの未来	星新一	新潮社	1969年	星新一さんは昭和から平成のSF作家です。作品のほとんどは短編ですので、読書が苦手な人でも気軽に読むことができます。これに収められている「番号をどうぞ」は、池に落ち財布もカードも落としてしまった人が、助けを求めてもカード番号が分からないので、誰からも相手にされなくて困るという話です。このように現在にも通じる話や、最後クスツと笑うことのできる話など幅広い内容で誰もが楽しめると思います。
170	ポッコちゃん	星新一	新潮社	1971年	みなさんは、「ショートショート」を知っていますか？「ショートショート」とは、特に短い短編小説のことです。星新一は「ショートショート」の神様と呼ばれ、たくさんの作品を残しています。その代表作「ポッコちゃん」には、なんと50編ものお話が収録されています。特に素晴らしいのは、その結末の意外性です。クスツと笑ってしまうユーモアたっぷりの結末、思わずハツと息をのむ衝撃の結末、と想像のつかないラストに、「じゃあ、次の話は！？」と、ついついページを進めてしまいます。読み終えた後には、爽快感とともに「人間とは何か」を考えずにはいられない、いつまでも心に深く残る、奥の深い一冊です。
171	風立ちぬ	堀辰雄	集英社文庫	1991年	今やアニメの題名として有名ですが、中身は全くの別物です。とにかく一度ページをめくってみてください。真夏の強い日差しがやや緩んで、徐々に秋の気配があらわれる季節。不意に風が吹き起こる瞬間に主人公の口をついて出た言葉、「風立ちぬ いざ生きめやも」が物語の主調音となります。難しい話ではありません。透明感のある文体で、それにふさわしい清澄な恋愛が語られてゆきます。高原の光と空気を感じながら、短くも美しい二人の生きざまをたどり、主人公の意識に身を委ねるように読んでゆきましょう。
172	日本語の作文技術	本多勝一	朝日文庫(朝日新聞出版)	1982年	この作者は多作であるが、おそらく時代を超えて最も長く読み継がれるのはこの本であろう。作文技術の本はたくさんあるが、最も実践的であり、最も文章の種類を選ばない普遍的な一冊。小説でも反省文でも小論文でも、書き始める前に一読すれば、確実に文章がうまくなる。
173	正義のミカタ I'm a loser	本多孝好	双葉社	2007年	ずっといじめられっ子として弱い立場で生きてきた主人公が、大学で「正義の味方研究部」に入ります。「正研」のバワフルな面々に囲まれた彼はやがて、自分も部の一員として強い立場に立っていくのです。いじめられっ子のサクセスストーリーは、主人公を引っ張り回す「正研」部員たちの強烈なキャラクターと、彼らが巻き起こすコミカルな展開で楽しませてくれます。そして、元いじめられっ子の、いじめっ子を裁ける立場を手に入れた後に導き出した自分の在り方については、高校生の皆さんに是非とも感想を聞いてみたいと感じます。
174	武士道セブンティーン	菅田哲也	文芸春秋社	2008年	スポーツを題材にした小説って珍しいですね。宮本輝氏の『青が散る』のテニス、あさのあつこ氏の『バッテリー』の野球、三浦しをん氏の『風が強く吹いている』の駅伝、どの小説にも、人間関係の中で、スポーツに集中し、成長していく若者の清々しい姿が描かれています。この小説は「剣道」です。ライバルに出会い己を高め、相手も高めていく、二人の少女の姿が描かれています。『シックスティーン』に始まって『エイティーン』まで、一気に読めます。主人公の尊敬する「新免武蔵」もきくと感動するでしょう。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
175	世界でいちばん長い写真	菅田哲也	光文社	2012年	今はデジタルカメラ全盛の時代で、携帯電話でも手軽に写真を撮っています。写真とはその時々瞬間の記録ですが、「撮る」行為には何か意味があるのでしょうか。 この物語の主人公、宏伸はクラブ活動の写真部で、卒業記念イベントのテーマに悩んでいました。ある日、偶然にも不思議なフィルムカメラと出会い、写真部員の血が騒ぎだします。周りの人々を巻き込み、他の部活動の生徒たちも巻き込みながら、壮大な「世界で一番長い写真を撮る」というイベントへ発展していきます。写真を撮ることは人と「つながる」こと。写真という思い出作りは「絆作り」そのもの。そういう大切なものが見えてくる物語です。 あなたは、何かに夢中になったことがありますか？誰かを喜ばそうとがんばったことはありますか？ この本の主人公中学3年生の宏伸は、親友で人気者だった洋輔が転校してしまっって済まない毎日を過ごしていましたが、ある日、祖父の小道具店で不思議なカメラと出会い運命が変わっていきます。 「やるべきことは今日から、今からやんなきゃ。先延ばしにする奴は、結局いつまで経ってもやんないから。」とは、本の中の台詞です。今日からは言い訳するのをやめて、前向きに取り組んでみよう！
176	幸せの条件	菅田哲也	中央公論新社	2012年	あなたにとって幸せとは何でしょう？土を耕し、種をまき水をやり稲を育てて米を収穫する、日本の伝統的な米作り。作物を育てる安全な土地があり、安心して食べられる食料があり、住居がある。生活を営める仕事があり、家族がいて仲間がいる。そんな当たり前の毎日がどれほど大切な。東日本大震災後、3年経った今も終結を見ない原発・放射能・エネルギー問題。これらを24歳の女性が農業を体験し、農家の抱える現実と向き合う中で気づいていく幸せの条件とは。食糧自給率・代替エネルギー・TPP問題についても考えさせられる一冊です。
177	サンダードッグー9.11 78階からの奇跡の脱出劇	マイケル・ヒングソン	燦葉出版社	2011年	9.11同時多発テロ事件当日、著者は世界貿易センタービル78階のコンピューター会社に勤めていて、事件に巻き込まれました。彼は生まれながらの全盲。側には相棒の盲導犬ロゼールが常にぴったりと付き添っていました。原因不明の爆発と衝撃。燃えさかる炎、ジェット燃料のおいが立ちこめるなか、著者とロゼールは1463段の非常階段を下り始めます。人生の困難に対して真摯に、ユーモアを忘れずに向き合ってきた著者。その経験が、災難を生き延びる手だてになりました。ロゼールとの固く結ばれた絆に感動する一冊です。
178	戦火の馬	マイケル・モーパゴ 著／佐藤見果夢 訳	評論社	2012年	この本は、「国境を越え、敵味方を超え、人間と馬を越えた物語」です。誰もがわかっている戦争の恐ろしさを馬のジョーイの視点から、再認識させてくれる、そんな本です。1・2年生は修学旅行での平和学習の前に、また、3年生はその体験を思い出しながら、手にとってほしい一冊です。
179	増補 文学テキスト入門	前田愛	ちくま学芸文庫	1993年	読書は人生の糧になると言われますが、単に読み飛ばすだけではもったいない。本書では、読書することすなわち「テキストを読む」とことはどういうことなのか、その意味を問い直し、新たな読みの可能性を引き出します。物語の結末にカタルシスを味わうだけの読書や安っぽい感情移入をしてストーリーやプロットを追うだけの読書はもうやめよう。さらに読書の高みへ。真剣にテキストと向き合い、テキストを読むことの新鮮な快楽が君の人生を豊かに広げます。
180	看護 ベッドサイドの光景	増田れい子	岩波新書	1996年	医療・福祉・看護をとおして人とかわる専門職を目指す高校生の方々に推薦する1冊です。 悩み、苦しみ、恐れ戦く人々の傍らに寄り添う我々に求められるものは何でしょうか。多くの人々へのインタビューからそれを浮かび上がらせています。著者は元毎日新聞論説委員の方で、高校生にとっては文章が多少硬く感じることでしょうが、生と死の間において患者の最も近くで真摯に向きあっている多くの看護師の姿からきっと何かを学べるはずですよ。
181	桃源郷ものがたり	松居直	福音館書店	2002年	国語で、漢文の授業がありますよね。この本は漢文に興味を持った人にも、漢文は苦手だと感じた人にも、ぜひお薦めしたい一冊です。漢文「桃花源記」をもとに再話されたこの本は、文章も絵も、とても美しい本です。特に絵は、桃源郷(=戦いのない平和な理想郷)伝説の残る地方を知り尽くしている中国の絵本画家が描いたもので、まるで絵巻物のように、美しい桃の花の世界を味わうことができます。そして、読んだ後には、『平和』とは何か、『約束を守ること』の大切さについて考えさせられる本です。
182	最低で最高の本屋	松浦弥太郎	集英社	2009年	自分のことについて、他人のことについて、自分を取り巻く環境について、自分がやっていることについてなど、虚無感を感じることはありませんか？様々なことが複雑に絡み合い、また細分化、多様化されてきている今。大切なのは1つだけで、実はとても単純なことなんだ、先を見据える力よりも、1歩を動ける原動力が自分の世界を広げていくんだということを、著者自らの経験や思いを素直に綴り、伝えてくれている本だと感じます。意味を創るのはいつだって自分でやりたい！そう思える1冊です。
183	17歳のための世界と日本の見方 セイゴ先生の人間文化講義	松岡正剛	春秋社	2006年	編集工学の専門家セイゴ先生が、世界と日本をめぐる人間文化を語る講義録。 五回にわたる講義では、イスラムやキリスト教や仏教といった宗教やヨーロッパのルネサンスや日本の安土桃山時代の文化など、世界史や日本史の教科書でおなじみの、古今東西の代表的な思想や出来事・人物が登場。世界と日本をめぐる文化が、歴史的にどのように発生し、変化し、さまざまな対立や融合を生んでいったのかをたどり、「世界と日本の見方」を紹介しています。 「17歳」の世界観を広げてくれる1冊です。
184	わたしはマララ 教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女	マララ・ユスフザイ／クリスティーン・ナラム	学研パブリッシング	2013年	2013年7月、16歳の女の子がニューヨーク国連本部で演説しました。「ひとりの子ども、ひとりの教師、1冊の本、そして1本のペンが世界を変えるのです」9ヶ月前、下校途中にタリバンに銃撃され奇跡的に回復したマララさん。その堂々とした力強い声に世界中の人々が胸打たれました。因習と暴力に屈せず、「勉強したい」「自分の意志で行動したい」という当り前の希望を妨げられている人々(特に女性たち)のために行動するマララさんの勇気に、ただただ励まされます。毎日学校に行ける、何事もなく暮らせる生活が実はどれほど恵まれたものであるか。痛切に考えさせられます。マララさんを支える家族の姿も感動的ですし、パキスタンの歴史もわかりやすく書かれています。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
185	思考のレッスン	丸谷才一	文藝春秋	2002年	知的好奇心によるテーマの見つけ方、それについて論理的に考え、論理的に書く論文作成のコツを教えます。インタビュー形式で読みやすくなっています。
186	風が強く吹いている	三浦しをん	新潮社	2006年	<p>あなたは「あの時、もっとああしていれば」と後悔をしたことがありますか。私はこの本を読むうちに、自分の学生時代を後悔しました。話にのめり込むほどに、誰かに巻き込まれてでも、流れに乗っていかなくても、何かに一生懸命になっておけばよかったという思いが強くなりました。「風が強く吹いている」は、挫折を経験した主人公が先輩に巻き込まれて箱根駅伝出場を目指す物語です。あなたも巻き込まれたつもりで表紙を開いてみてください。この本を読み終わる頃には、きっと新しいことに挑戦したくなっているはずですよ。</p> <p>舞台は今や冬の風物詩ともなった箱根駅伝。寛政大学(現実には存在しない)に、入学してきた1年のスーパーヒーロー蔵原走(かける)を中心に物語が展開します。駅伝部員全員が寮生活を通じ、強烈な個性が融合してチームワークとなっていく流れは、どんどんページを進ませてくれます。台宿の様子、記録会を経て本大会へと進み、部員ぎりぎり10人で箱根駅伝大会への出場を果たします。そして、クイマックスは、10区間での他校との順位争い、寛政大学のメンバー個人個人の思いなどが克明につづられます。そして、結果は……。ぜひ、読んでみてください。陸上部以外の人でも楽しめます。ちなみに、映画化もされました。4年生でキャプテンの清瀬灰二役は小出恵一でした。原作にかなり忠実に描かれています。</p> <p>最少人数で競技の頂点をめざす、本書はスポーツ青春もの王道とも言える設定です。舞台は、箱根駅伝。主人公の天才ランナー「走(かける)」は、過去に暴力事件を起こしています。陸上競技しか知らなかった「走」が、大学生活の中で、陸上部の仲間やライバル校の先輩達と知り合って成長してゆく姿にひきつけられます。「思いを言葉にかえる力、自分のなかの迷いや怒りや恐れを冷静に分析する目」。「速いランナー」ではなく「強いランナー」になるために、彼はそれを得たいと願って努力します。読後には、寛政大学チームの「風」を感じます。</p> <p>清瀬は、走の走る姿に魅了され、大学で野宿していた走を自分の下宿に引き込んだ。これで、竹青荘の全室が埋まり、清瀬と大家さんの宿願に一歩近づきます。天才ランナー走を迎え、状況は一変。実は大家さんは日本陸上界の至宝と言われた人物で、竹青荘は某大学陸上競技部練習所でした。10人そろった今、皆で箱根駅伝を目指すのです。半年後の予選会を素人ばかりの集団で目指す。個性豊かなメンバーが織りなす、スポ根あり、ロマンスありの青春小説。「わかればいい」と清瀬は言った。「きみは一人じゃないうてことかな」読後にはきっと、あなたも走りたくなる。</p>
187	神去なあなあ日常	三浦しをん	徳間書店	2009年	<p>高校を卒業して特に目標もなくブラブラしようと思っていた主人公は、進路の先生と両親にはめられて林業見習いをするに。その地・神去村は携帯電話も通じない、コンビニもないような超・山奥の辺境。しかも村人は静かで破壊的！そんな環境で自分の無力さにへこんだり、立ち直ったりしながらほんのちよつとずつ成長していく主人公を、村のみんなは木を育てるように厳しく、かつ優しく見守ります。すぐに結果を求めないことの大事さを読後感じられる、イマドキヘタレ少年奮闘記。</p> <p>ふだんあまり読書をしないうる人にもとても読みやすいおすすめ本です。高校卒業時、進路に迷う都会育ちの主人公が、ふとしたきっかけで山奥の村で林業に携わることになり、だんだん人として成長していく物語です。ユーモラスに描かれていて、読後感もとても良いです。</p> <p>高校を卒業したら適当にフリーターで食っていこうと思っていた都会の若者が、親と先生の陰謀により、突然三重県の山奥で林業研修をすることになった。主人公の日記風に書かれたこの物語は、神去村での1年間の体験を綴ったものである。なあなあとは、この村の方言で「ゆっくりのんびりいこう」という意味です。個性的で魅力あふれる村人との交流を通じて、少しずつ変化してゆく都会育ちの主人公。素人のワイルドな林業体験のおかしさと、時々起こる事件のドキドキ感をぜひ味わってほしい。</p> <p>横浜生まれの平野勇気が高校を卒業して三重県の神去村で林業の仕事に就きます。あまり馴染みのない林業のたいへんさやおもしろさが生き生きと描かれています。山村での生活や人々との交わりで勇気が味わう戸惑いと驚きは、そのまま私たち読者の新鮮な感動となります。神去村の日常に徹底している山の神への畏敬や巧みへの尊敬が、「自然との共生とは何か」というテーマを、勇気の具体的な体験とおして、より深く掘り下げて考えさせてくれます。魅力ある登場人物への興味が続編『神去なあなあ夜話』への呼び水にもなっています。</p> <p>主人公は18歳、高校卒業後に半ば強制的に三重県の神去村に林業研修に出された青年。そこは携帯電話も圏外になってしまうほどの山奥の村。村人たちの口癖も、「あわてずゆっくり行こう」というニュアンスの「なあなあ」という言葉。そんな環境の中で主人公は植林作業を通じて自然の不思議さを体感し、村人たちの考え方や生き方に反発しながらも、次第に共感していきます。強烈な個性の天才植林作業員も登場し、ハラハラと、ほどよいおかしさが入り混じり、日常の時間に追われている人に「なあなあ」の大切さを感じさせてくれる一冊です。</p> <p>みなさんは、高校卒業後の進路を明確に決めていますか？この本の主人公の勇気は、進路決定をすることができないまま、高校を卒業しようとしている都会の男の子です。高校の卒業式終了後、担任の先生から「お前の就職先を決めてきてやったぞ」と、いきなり三重県のト田舎「神去村」への片道切符を渡され、わけのわからないまま林業に動かしむこととなります。のんびりとした村の雰囲気と「なあなあ」な住民に囲まれ、成長していく主人公がだんだんたくましく見えてくる温かい作品です。豊かな自然描写も読みごたえあり！！</p>

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
188	舟を編む	三浦しをん	光文社	2011年	<p>なじみの深い辞書、その編纂に携わる人々の努力を淡々と、かつロマンティックに描いています。硬い世界を素材としているにもかかわらず、詩的な表現により、言葉の織りなす世界が大きな夢を内包していることに気づかされます。様々な人間の思いや、主人公の恋愛なども絡ませて、一気に読み終えてしまうことでしょう。表装や紙質にまでこだわった、辞書編纂の陰の仕事を知ることにより、普段何気なく使っている言葉に対する興味をそえられることはもちろん、読み物としての「辞書」への愛着が湧いてくると思います。</p> <p>最近言葉調べるのも電子辞書や携帯電話やスマートフォンの辞書機能を使うことが多くなっていますね。そもそも「意味調べなんて面倒くさい」と、授業で課題にでもしないと辞書を使うことも少なくなってきたような気がします。この本は新しい国語辞典を編集するために多くの時間を費やし苦労を重ねる人たちの恋あり、笑いあり、涙あり、そしておいしい食ありのお話です。この本を読めば、辞書それも紙の辞書にさわりたいくなる(?)、引きたくることまちがいない!!</p> <p>辞書を使って言葉の意味を調べることが好きですか？私は時々、辞書で読書します。五十音順に行儀よく並べられた言葉たち、一つ一つの意味を読んでみると、意外に引き込まれるものです。「今時は電子辞書でしょ・・・」というあなた、何種類もの辞書をすべてカバーしている電子辞書は確かに万能で、予習復習も効率的にこなせますね。この本を読むと、1冊の紙辞書ができるまでの出版の現場がわかります。紙辞書編纂の現場で、全く効率的とはいえない地味な仕事をこつこつと積み重ねる主人公がいます。馬締(まじめ)という名のこの人は、辞書編纂という天職と彼をよく理解する仲間に出会って、13年という長い歳月を費やし、辞書を完成させるのです。彼と仲間達の仕事ぶりに触れると、紙辞書への思いが深まりますよ。また、あなたの進路についてもヒントがもらえるかもしれません。</p> <p>辞書を作るために奮闘する主人公とその仲間のお話です。出版社に勤める主人公の辞書に対する熱き思いからは、自分の仕事に情熱を傾ける人の素晴らしさが伝わってきます。あなたは、主人公を通じて、物事に熱心に取り組む人の美しさと日本語の奥深さを感じることでしょ。あなたには熱き思いを寄せる何かはありますか？数千ページの辞書も、作る時は1ページからの歩み。小さな努力の積み重ねが大きなことを成し遂げる大切さを教えてください。また、一人ではできない大きな物事でも、みんなの力を集めて取り組めば達成できるというメッセージも込められています。</p>
189	まほろ駅前多田便利軒	三浦しをん	文藝春秋	2006年	<p>世の中の人を、勝ち組と負け組という分類で分けたら、この本の登場人物の多田と行天は負け組に属するのかもしれない。離婚歴があり、会社を辞めて、今はしがたない便利屋稼業。お金もなく、これからの生活に不安しかない二人だ。ただ、そんな二人が織りなす物語は、大丈夫かなあ？と心配したり、どきどきしながらも心を感じる言葉や行動に励まされる。なぜ心が優しくなるのだ。こんな大人になりたいかと聞かれれば、なりたくはないけれど、こんな大人がいるのも悪くないと思わせてくれる一冊。こんな友達なら大切にしたいと思うことのできる一冊でもある。直木賞受賞作でもある。高校生にもきっとこれからの生き抜く力をくれると思う。是非読んでみてください。</p>
190	ピブリア古書堂の事件手帖1～4	三上延	メディアワークス文庫	2011年	<p>美人で巨乳で口笛はすうーすうーとへたくそだが、「本」に関しては超人的な洞察力を発揮する「菜子(しおりこ)」さん。本がちっとも読めなくて、だから古本屋の店員にふさわしくない筈なのに肝心なところでカンパのいいソボボの「俺」。面白コンビの本の事件解決物語。書斎探偵の一変形。ひものしおりをつけてくれる文庫本は今やほぼ新潮文庫だけになった。そんなことが事件解決の糸口になる。太宰治『晩年』が、坂口三平『クラクラ日記』が、江戸川乱歩『押し絵と旅する男』が読みたいくなる。シリーズ次の一冊が早く読みたいくなる。</p>
191	潮騒	三島由紀夫	新潮社	2005年	<p>冒頭にある歌鳥は三重県の神鳥のこと。この島で生まれ育った男女の恋の物語。</p>
192	夢をかかえるゾウ	水野敬也	飛鳥新社	2007年	<p>この本は自己啓発本なのですが、あらゆる自己啓発本を超えるようなエネルギーをもっています。ゾウの神様であるガネーシャと主人公の面白いストーリーになっており、ガネーシャの主人公に対する言葉を聞いて自分も頑張ってみようという気が湧いてきます。まさに今、高い目標を掲げ頑張ろうとしている皆さんにぜひ読んで欲しい本です。</p> <p>総計180万部を超えたベストセラー小説で、テレビドラマにもなりました。ごく普通のサラリーマンの主人公が「神様」を名乗る謎の生物・ガネーシャの指導によって自らの人生を変えていく物語です。</p> <p>この本では、「与えた課題を實踐し、身につくまで継続することが大切である」と力説しています。主人公に与えられた課題も「靴を磨く」「コンビニでお釣りを募金する」「食事は腹八分目にする」といったごくごく簡単なものです。</p> <p>この本を読んで、みなさんもできることから取り組んでみませんか。</p>
193	モモ	ミヒヤエル・エンデ	岩波書店	1976年	<p>最近流行のSNS、誰でも一アカウントを持っているでしょう。「自分のことを知ってほしい」「理解してほしい」「・・・できれば羨んでほしい」。そんな意識が蔓延して、みんな自分の話を聞いてもらいたがっています。</p> <p>こんなとき、モモだったらどうするかな。そして、この話を読み終わったあなたはどうするのかな。生活や社会が窮屈に感じたとき、自分が自分であるために必要なことを教えてくれる本です。</p> <p>「時間がない」「余裕がない」私たちは日々の忙しさの中で、何か大切なものを自分から手放してしまっているのかもしれない。「モモ」は円形劇場に突然現れた女の子で、黙って人の話に耳を傾けるだけで、その人の悩みを解消させる不思議な力を持っています。町の人たちは、何かあると「モモのところへ行ってごらん」とモモを頼りるようになります。そんなモモたちの前に時間の貯蓄を勧める「灰色の男たち」が現れ、人々は余裕をなくしていきます。</p> <p>わくわくしながら読め、時間とは何か、生きる上で大切なものは何か、考えさせてくれる一冊です。</p>

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
194	ぼんくら	宮部みゆき	講談社	2004年	舞台は江戸深川。井筒平四郎というちょっととぼけた同心と、彼の甥で頭の切れる美少年弓之助くんを中心に、長屋の住人や粋な岡っ引きたちと事件を解決していきます。一話ずつ事件は解決していきますが、物語は個性豊かな登場人物たちの人生を大きな流れの中で紡いでいきます。宮部みゆきの美しい日本と確かな描写力で描かれた江戸の世界は、時代小説は苦手という人も引き込んでしまう魅力があります。現代ミステリーも楽しいですが、時には、江戸にタイムスリップしてみませんか。
195	ソロモンの偽証(全三巻)	宮部みゆき	新潮社	2012年	ある中学校で起きた一人の少年の死を巡って、その真相を知るべく同級生たちが前代未聞の学校内裁判を開き、教師、家族、マスコミを巻き込みながら、事実を一つ一つ明らかにしていき、真実に迫るという話です。現代の社会が抱える人間の心の闇を描きつつも、最後は人間を信じたい、というこの作家のスタンスはいつも変わらず、的確な人物描写や心理描写、時にはユーモアを交えた巧みなストーリー展開で読者をぐいぐいと話に引き込んでいき、700ページ、三巻という長さは感じさせません。こんな中学生がいるのか、と少々突っ込みを入れたいくなる場面もありますが、そこは小説と割り切って読みましょう。今の裁判員制度の仕組みについても、知っているようで知らないことも多く、この本を読みながら勉強にもなりますよ。
196	模倣犯	宮部みゆき	小学館	2001年	宮部みゆき渾身のミステリ小説です。3部に分かれています。第1部は事件の被害者・関係者・警察の側を中心に、第2部は犯人とその同級生の側を中心に、第3部は再び被害者・関係者・警察の側を中心に物語が進んでいきます。天才を自称し狡猾であるのに、人間として大切なものが欠落している主犯、それぞれに苦悩を抱えながらも犯人に挑む、死体の第一発見者の少年と被害者の祖父、対照的な人物たちの姿がよく描かれています。なぜ「模倣犯」というタイトルなのか？その理由がなかなか分かりませんが、最後のクライマックスになってやっと分かります。その時の爽快感！3部あわせて1,413ページという大長編ですが、一気に読みたくなります。(さすがにちよっとむりですが)
197	青が散る	宮本輝	文春文庫	2002年	物語は大学の事務室で始まります。無名の新設大学に行く決心がつかずぐずぐずしていた主人公・涼平の前に一人の女子学生・夏子が颯爽と現れ手続きを済ませ、涼平に「お先に」と言って立ち去ります。3月末の雪交じりの雨の日でした。その後涼平は仲間と一緒にテニス部を立ち上げ、4年間ひたすらテニスに打ち込みます。その間、どれだけ努力しても勝てない相手がいることや、かなわぬ恋を経験し自らの器を知って大人になっていきます。物語の最後も3月末の雪交じりの雨の日でした。同じ科目の追試を受ける涼平と夏子が言葉を交わします。涼平は「この4年間は何や恥ずかしい時代やったな。」とつぶやきます。午後からも追試を受ける涼平に、夏子は4年前と同じ「お先に」という言葉を残して先に帰ります。青春の爽やかさ・残酷さを描ききった作者初期の傑作です。一読をお勧めします。
198	キャンパスの雨	三好京三	文藝春秋	1985年	直木賞作家、三好京三が慶應義塾大学通信教育生時代の体験をもとに描いた中年大学生の青春小説である。現在の大学通信制教育とは異なっている部分も多いが、通信制高校生にも読んでほしい。
199	友情(改版)	武者小路実篤	新潮社(新潮文庫)	2003年	君には親友がいますか？親友のためにどんなことが出来ますか？この本は大正という時代の恋愛小説です。しかし、ちっとも古さは感じないでしょう。時代の空気・友情・芸術・神・社会問題に戸惑うかも知れませんが、ラストシーンの清冽さが印象的です。最後まで読み進めることで君のスキルが上がることを願っています。
200	風の歌を聴け	村上春樹	講談社	1979年	「完璧な文章などといったものは存在しない。完璧な絶望が存在しないようにね。」——今や世界的にファンを持つ村上春樹の1979年のデビュー作です。兵庫県芦屋市と推測される街に帰省した大学生の「僕」と「鼠」と呼ばれる友人の孤独が洒落な文体で描かれています。思春期に村上作品を読み、さらに作品に描かれた文学作品や音楽などと出会うことで、価値観や世界観が変わったというファンは多いです。村上作品を未読の人、長編小説が苦手という人にもおすすめの一冊です。 毎年、ノーベル文学賞の候補となり、新作を発表するたびに社会現象を引き起こしている村上春樹のデビュー作。1979年4月に群像新人文学賞を受賞し、第81回芥川賞にノミネートされます。村上自身は「自身が未熟な時代の作品」と評し、気に入っていないようですが、村上春樹ワールドの原点がここに 있습니다。近年の作品や話題作を読んで難解だと感じた高校生のみなさんは、まず、この作品からスタートしてみたいかがでしょうか。大学生「僕」のひと夏のストーリー。
201	新13歳のハローワーク	村上龍	幻冬舎	2010年	学校を卒業して就職したり、訓練校などに進学するみなさんには、お金を稼ぐことだけでなく、仕事以外にも生きがいややりがいを見つけて生活してほしいと思います。 本のタイトルには「13歳」とありますが、高等部のみなさんにとっても将来をイメージするのに参考になる一冊です。 就職していくみなさんに、一度は読んでおいてもらいたい本。様々な仕事(先生たちも初めて知る仕事があります)の「事典」のような本です。「何も興味ない！」というような人でも、何かしら発見できますよ。まずは「読む」のではなく、「見て」みよう。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
202	鍋の中	村田喜代子	文芸春秋	1987年	あるラジオ番組で紹介されているのを聞いて大変興味を覚えました。「鍋の中」とはいったい何なのか。読後の究極の問です。ストーリーは、夏休みに田舎に住む祖母の許へ4人の孫が訪ねて行くという、何の変哲もない設定です。既に記憶も判然としない老婆が、家族の昔話を語っていきます。その話を聞く孫たちの様子がほのぼのと描かれ、次第に血縁の意味を体感していくという、不思議な空気に充たされています。黒沢明監督により「八月の狂詩曲」として映画化もされているので、合わせて鑑賞するのもいいかと思います。
203	キスまでの距離(おいしいコーヒーのいれ方I)	村山由佳	講談社	1994年	1時間以上かかる電車通学の時間を持て余した私が、表紙のイラストとタイトルで選んだこの本。本嫌いだっただのにも関わらず、グイグイと引き込まれるように読み進め、気づいたときには周りから読書好きと呼ばれるほど様々な本を読むようになっていました。高校三年生の主人公が、新任教師として赴任してきた年上のいとこと同居することになり、恋をするストーリーを最初は少女マンガのような設定だと思いましたが、登場人物の心情や主人公の成長に心を惹きつけられ、今ではシリーズの最新作を心待ちにしています。本を読むのはちょっと…と思う人に読んでほしい一冊です。
204	海賊とよばれた男	百田尚樹	講談社	2012年	2013年、第10回本屋大賞受賞作。主人公のモデルは出光興産の創立者で実在の人物。敗戦により誇りを失ってしまった日本人。そんな中で自らの信じる経営方針に基づき、社員を誠首することなく幾多の困難を乗り越えていくスーパー経営者。現代では多くの経営者が非正規雇用で頼って利益をあげようとしているのとは対照的に、経営哲学の神髄を教えられる。生きる目的、働く喜びがこの本の中には描かれている。これから世に出る若い諸君に是非読んでもらいたい一冊。
205	永遠の0	百田尚樹	講談社	2009年	私たちは、戦争のことを知らない。「零戦」と聞くと、もしかしたら「カッコいい」と思う人がいるかも知れません。しかし、その零戦に乗っていた人やその家族はどんな思いだったのでしょうか。「特攻」というのも聞いたことがあるのでしょうか。この本を読んで、戦争の全てが分かるわけではありませんが、少しでも知ってほしいと思います。また、戦争で戦った人やその家族の感動のドラマにも出会えます。ぜひ、読んでください。
206	ボックス！	百田尚樹	太田出版	2008年	高校のボクシング部に所属する幼なじみの鎬矢と木樽の青春、と言ってしまうまでもありますが、二人を見守る教師耀子や病弱な同級生との交流をスパイスに、ボクシングに打ち込む硬派な少年たちの青春を熱く、さわやかに描いています。名前のように真っすぐに人生を突き進む破天荒な鎬矢。子ども時代の辛い体験から思慮深く、優等生の木樽。守る側と守られる側が次第に強力なライバルへと変化していくところも見どころです。二人の友情や挫折、栄光に感動必至。ちなみにボクシングについての知識はなくてもOK。
			講談社	2013年	「永遠の0」で有名な百田尚樹がスポーツに青春をかけた高校生を描いた作品です。タイトル「ボックス！」、これはボクシング開始の合図。このかけ声がかかると、自己の欲求を抑制し、苦しい練習を積んできた成果が試されるのです。読んでいくとボクシングを知らない人にも十分その魅力が伝わります。主人公は、天才と努力家というタイプの異なる二人。この二人がボクシングを通して成長していく姿を見て下さい。
207	輝く夜	百田尚樹	講談社	2010年	最近、楽しい生活を送っていますか。友達とはうまく付き合えていますか。勉強の内容はよく解りますか。部活動と勉強は両立できていますか。また、御両親とは最近、話をしていますか。そして、希望通りの進路が実現しそうですか。沢山の質問をしましたが、なかなか全部が思い通りにならないうえ、それどころか、どれもこれもうまくいかないときもあるかもしれません。もしも、「生きていることが辛い。」なんてネガティブな気持ちが芽生え始める予感がするならば、この「輝く夜」の一読をお勧めするよ。きっと、「世の中捨てたものじゃないな。」と、勇気が湧いてくるはずですよ。
208	カラフル	森絵都	文春文庫	2007年	「人間、自分の見方や考え方が常に正しい」と誰が言えるでしょうか。言えないはず。もし、自分が友人から「こういう人間だ」と決めつけられたら…。もし、自分が友人や家族のことを「こんな人間だ」と決めつけられたら…。私たちは、つい自分に関わる様々な人、もの、環境を一面的にとらえてしまい、自分の世界を閉ざしてしまっているのではないのでしょうか。それは、人と人とのつながりの中で生きる現代において、あまりにも悲しいものです。本書を読むと、自分が、今、生きているこの世界と、どのようにかわれば、良いのか。そのヒントがあります。そして、何より、本書をきっかけに、一人ひとりが「カラフル」な世界を生きてほしいです。世界は私たちが想像する以上に「カラフル」なのだから…。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
209	間違ってたっていいじゃないか	森毅	創隆社	1981年	掃除当番、きちんとやってる？「あたり前です。」「うーん、ちょっと。」人によって違うかな？数学者でもある筆者は言う。「サボりをまったく許さないクラスというのは、むしろこわい。」「サボりを認めるのか。」と腹立たしく思った人も、「サボっていいの。」とほくそ笑んだ人も、ちょっと考えてほしい。なぜ、「むしろこわい。」「のかを。「考えるなんてややこしい！」って？でも、筆者が言うように「人間が生きていくというのはややこしいものだ。」社会のこと、勉強のこと、恋愛のこと、人生のこと、読み進むうちに「ややこしさ」が楽しくなるよ。
210	ペンギン・ハイウェイ	森見登美彦	角川出版	2010年	日本SF大賞受賞作で、さっそく図書館の一冊に。新着図書の整理をする際、帯の見出しに惹かれ中身が気に入り、最初の5行を読んだ地点で読み進まずにはいられなくなりました。主人公は、生き物や宇宙、ロボットまで身の回りのすべての事に興味津々で、研究心旺盛な男の子です。ある日の登校途中の空き地に、忽然とペンギンたちが現れるところから、次第に壮大な物語がはじまります。哲学が随所にちりばめられ、何度読んでも飽きの来ない本です。書名の『ペンギン・ハイウェイ』は、「ペンギンが海から陸に上がるときに、決まっていたルートをそう呼ぶ」とのこと。
211	しずかな日々	椰月美智子	講談社	2006年	誰にもあった小学五年生の夏休み。この本には、少年の「五年生の夏休み」が静かに、それでいて色鮮やかに語られています。おじいさんの家、友達、プール、のんびりと流れる時間…。誰の心にもある夏休みの光景がまぶしく、懐かしく感じられます。主人公の複雑な心模様も同時に描かれていて、人生についても考えさせられます。最後の一行がとて心にも響きます。子どもから大人へ向かう高校生の皆さんに是非読んで欲しい一冊です。
212	わたしが正義について語るなら	やなせたかし	ポプラ社	2009年	アンパンマンはお腹がすいている子を見つけて、自分の頭をちぎって食べさせる。このような姿を描いたことにも、やなせたかしの思いが込められています。やなせさんは戦争の経験者で、戦争中、一番辛かったことは「飢え」であったと語っています。世界中のストリートチルドレンは、今日も飢えに苦しんでいます。戦争で人を殺しに行くより、目の前で飢えに苦しむことにもパンを食べさせてあげるほうが、よほどかっこいいのではないでしょうか。正義の心たちは一つではありません。絶対的な正義もないし、正義のためには悪人が必要だし、また正義を行うと傷つくことだってあります。そのような正義に対する思いを、ぜひ感じてみてください。
213	「しがらみ」を科学する	山岸俊男	ちくまプリマー新書	2011年	社会へ出ていくことに不安を感じている人、人の気持ちやまわりの空気を読むことが苦手な人は、案外たくさんいます。この本は、そういう人たちが社会をちゃんと理論的に理解し、そこで働いている原理を使って、「社会」で自分はどうしたらいいのかを考える手だてが書かれています。自分は“協調性のある常識人”と思っている方は、是非ご一読を！！社会とは私たちの「こころ」が作り出す「しがらみ」です。
214	犬から聞いた素敵な話 あなたと暮らせてよかった	山口花	東邦出版	2014年	ここに書かれているすべての犬とのエピソードに共感でき、私の気持ちは揺さぶられました。それは、私が現在、7歳になるラブラドルトリバーと暮らしているというのも大きな理由だと思います。しかし、犬を飼っている皆さんはもちろん、飼っていない皆さんにも、この感動は味わってもらえたと信じます。本書のエピソードをとおして、犬の気持ちを理解しようとする気持ちは、皆さんの想像力を育てていきます。高校生にとって想像力を豊かにすることは、今後の大きな力になります。ぜひ、この一冊を手にとってみてください。
215	病院で死ぬということ	山崎章郎	文藝春秋	1996年	高校時代は、人間の生と死や生きる意味などについて真剣な問いが生まれる時期です。この精一杯生き、そして死んでいった人々を知ることによって答えを探す手がかりが必ず見つかるはずですよ。
216	「わかる」とはどういうことか	山鳥重	筑摩書房	2014年	勉強するとき、「わからない」を言い訳にしていますか？でも、何か新しいことを知った時や、難しい問題が解けた時は嬉しくなりませんか？「あっ、わかった！」の喜びのメカニズムを知ろう！
217	人は皆「自分だけは死なない」と思っている。	山村武彦	宝島社	2005年	1995年1月17日早朝、一人でいつもより早めの朝食。そのとき、「ドン！」という音とともに体験したことのない縦揺れ。しばらくガタガタと、横揺れが続きました。阪神淡路大震災の揺れが愛知県にも。「今、この本棚が倒れてきたら危ないな」と思いつつ、私の取った行動は微動だにせず座ったまま揺れが収まるのを待つことだけでした。みなさんも、この本を読んで「いざというときのための、判断と行動」について考えるきっかけにしてみてください。
218	君たちはどう生きるか	吉野源三郎	岩波書店	1982年	この本は、主人公ペルくんと、そのおじさんの2人が、毎日の生活の中で感じたことや思ったことを交換日記を通じて語り合うというスタイルです。二人の語るエピソードがテーマごとに分けられていても読みやすく、おじさんからのアドバイスも哲学っぽいのに説教じみでならず、まさに読む人の心にストンと落ちてくるのです。この本が発行されたのはずいぶん昔ですが、今読んでも全く色あせておらず、むしろこんな時代だからこそ、よりいっそうの輝きを放っているのです。高校生の皆さんのこれからの人生にプラスとなる一冊です。
			新潮社	1937年	大学時代に読んだ時、もっと早く出会いたかったと痛烈に思った本です。ページをめくるたびに心の中にあつた霞(もや)が少しずつ晴れていき、自分の世界が広がっていくのを実感しました。人として正しく心温かに生きていく勇気をくれる本でもあります。

NO.	書名	著者	出版社	発行年	推薦メッセージ
219	キッチン	吉本ばなな	福武書店	1988年	「もうたくさんだと思ひながらみあげる月明かりの、心にしみいるような美しさを、私は知っている。」 唯一の肉親である祖母を亡くし、天涯孤独となったみかげと、優しいが妙にクールな雄一。そして妻の死後、女として生きることを選んだ、雄一の父(母?)えり子さん。大切な人の死という、やりきれない深い悲しみから少しずつ再生していくみかげたちの姿は、読み終えた後の自分の世界をほんのり明るくしてくれます。高校生は、悩むことの多い多感な時期にあると思います。そんな時、自然と背すじを伸ばし、前を向く力をくれる優しい物語。
220	ムーンライト・シャドウ (『キッチン』に収録)	よしもとばなな	福武書店	1988年	私が高校生の頃、読んだ本です。吉本ばななさんの『キッチン』におさめられている短編です。風景の描写、心の描写とも繊細で心を揺さぶられた思い出の作品です。読後、優しくあたたかい気持ちになれると思います。
221	利己的な遺伝子	リチャード・ドーキンス	紀伊國屋書店	2006年	「我々の遺伝情報は遺伝子によって受け継がれていくなどと教えていたが、リチャード・ドーキンスは「我々の個体は遺伝子の乗り物である」ととらえる。発想が真逆。「なぜ世の中から争いがなくなるのか」など、様々な疑問に理解のヒントを与えてくれる。「生物=生存機械論」という書名の時はあまり売れなかったが、この書名にしてからよく売れたそう。分厚く時間がかかるけれどお薦めです。
222	われらの歪んだ英雄	李文烈	情報センター出版局	1992年	1950年代の地方の小学校を舞台に、都会のソウルから転校した「私」が「歪んだ英雄」の支配する教室で体験した1年数か月の出来事を、「私」が30年前を回想する形で展開します。ソウルの名門小学校で成績優秀だった主人公が「歪んだ英雄」であるオム・ソクテの暴力的挑発やいじめ、無視に立ち向かい、新しく着任した担任によりオム・ソクテの悪事の数々が暴かれるまでを描く。数々の文学賞を総なめにした韓国純文学の巨匠李文烈(イ・ムンニョル)の自伝的小説です。
223	タンポポのお酒	レイ・ブラッドベリ	晶文社	1971年	アメリカのイリノイ州の田舎町。彼の国では6月が夏の始まりです。12歳のダグラス少年は、真新しいテニス靴で1928年の夏を駆け抜けていきます。彼が見て感じるもの一つ一つが輝きに満ち溢れ、日が沈むと魅力的な夜の闇が手招きをする。今の君たちの日常とはかけ離れた世界が広がっていきます。ダグラスと一緒に、輝かしい季節を過ごしてみませんか。きっと、君たちの「たんぽぽのお酒」にも、夏の思い出がいっぱい集まってくるでしょう。
224	さむがりやのサンタ	レイモンド・フリッグス	福音館書店	1974年	サンタクロースといえば、冬に強いイメージがあります。しかし、この作品に登場するサンタは冬が苦手なのです。クリスマスにはきっちり防寒し、寒さに耐えながらも世界中の子供たちにプレゼントを届けてくれます。その際、一人の少女からサンタはプレゼントをもらい、彼も幸運と同じようにクリスマスを楽しむ事ができます。少女からのプレゼントを開けた瞬間のサンタの表情は本当に嬉しそうで和みます。これまでのサンタのイメージを覆される作品です。クリスマスが近づくと読みたくなる一冊です。
225	置かれた場所で咲きなさい	渡辺和子	幻冬社	2012年	青春時代を過ごしているみなさんは、毎日いろんな問題に遭遇しているでしょう。学習、部活動、友人、家族……。自分では抱えきれない悩みに押し流されそうになってしまうこともあると思います。著者の渡辺和子さんは幼い頃、父を銃弾によって目の前で亡くされました。その悲しみを乗り越え、神に仕える修道者、また、教育者として今も元気に活躍されています。渡辺さんの貴重な体験から生まれたメッセージはこの時代を生きる私たちに勇気と希望を与えてくれる珠玉の言葉です。一語一語かみしめるように読んでみてください。きっと明るく生きる力が湧いてくるでしょう。 簡単に言うと、どんな立場になっても、どんな仕打ちを受けても、自分が笑顔で幸せに生き、周囲の人々も幸せにするにはどうすればよいか、ということが書いてあります。(こんなまとめ方だと、著者にしかられそうですが。)生きるって辛いなあと感じている人、将来は人と接する職に就きたいと考えている人に、是非読んでほしい本です。 ここだけの話ですが、本校の定時制課程で、この本を読んでから某短大の推薦入試を受けた人は、100%合格しています(……といっても二人ですが)。字も大きめで、全部で159ページです。一つの章も短いので、読みやすいと思いますよ。

「こころときめく贈り物」～高校生にすすめる1冊の本～は、愛知県内の国立・公立・私立高等学校・特別支援学校(高等部)・中等教育学校(後期課程)の図書館担当など274人の先生方から推薦のあった本や、高校生が友だちにすすめたい本を生徒のみなさんに紹介するものです。

このリーフレットは、「愛知県子どもの読書活動」ウェブページで見ることができます。

→<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/syogaigakushu/0000027044.html>

愛知県子ども読書

検索

発行：平成29年1月(第5号)

問い合わせ先：愛知県教育委員会生涯学習課 syogaigakushu@pref.aichi.lg.jp

〒460-8534 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

☎052-954-6781 FAX052-954-6962